

311.8

615m

311.8

Sa615m



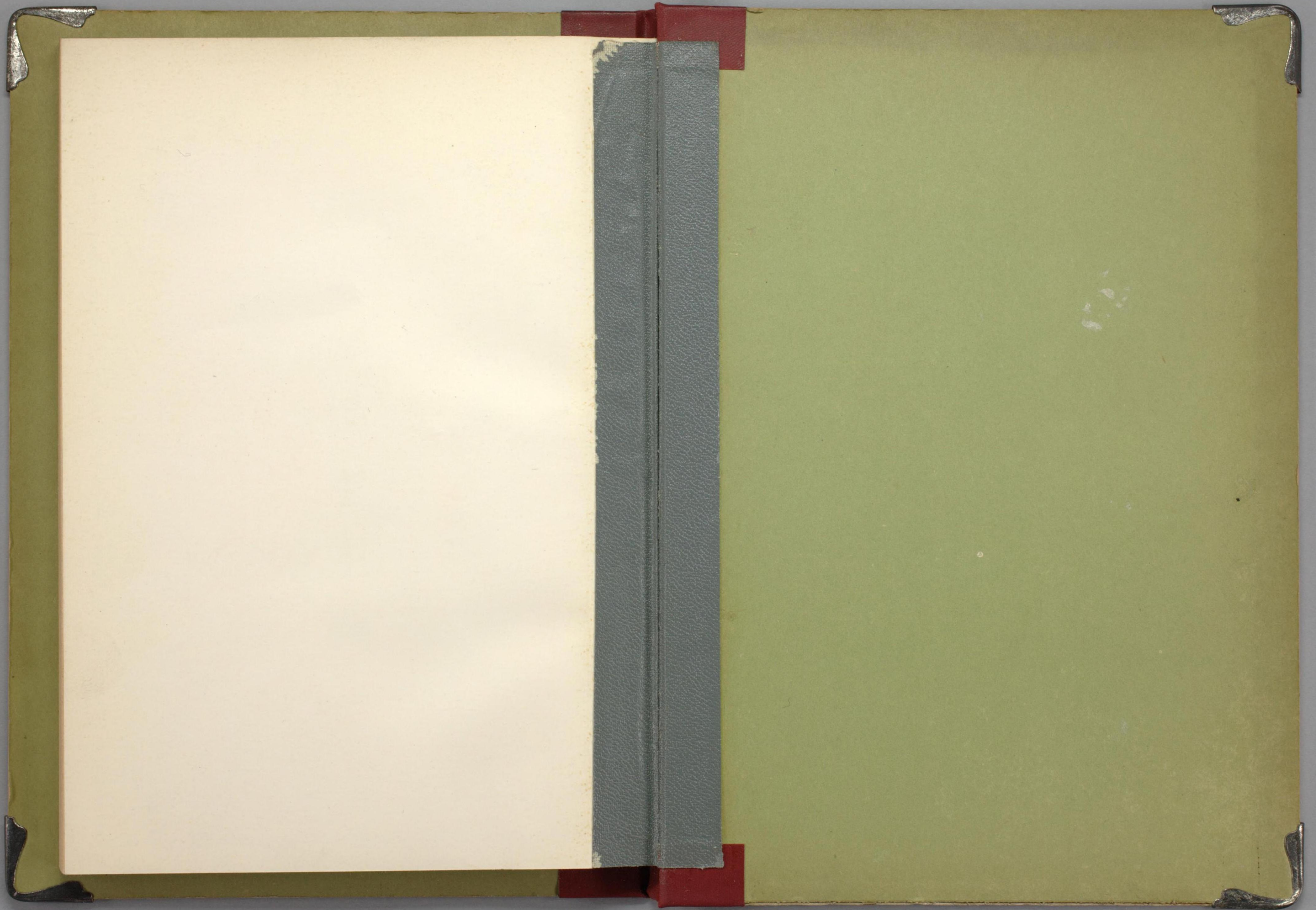
00446614

民族と民主主義

佐野 学

国立国会図書館





佐野學著

民族と民主主義

九州書院

民族と民主主義

佐野學著

九州書院版

311.8  
Sab 15 m



446614

### 序

私は共産黨事件のため昭和四年から同十八年まで在獄したが、昭和八年に共産黨を脱し、自分の社會主義思想を一國社會主義と名づけて、爾來それを奉じてゐる。今われ／＼の基本問題は政治、經濟、社會、精神生活のあらゆる方面に民主々義を徹底するにあるが、その民主々義は必然に社會主義へ發展するのであり又發展させねばならぬのである。私は一國社會主義の立場から現に進行しつつある民主革命を眺めその間における勤勞者大衆の任務を思索しつづけてゐる。この論文集はこの思索の一端である。私は民主革命の過程においても民族が大きな役割をもつことを信ずる。私は依然共産主義者流の自國蔑視的な國際主義や民族契機を無視する階級至上主義が有害であるのを信ずる。私は日本を愛してをり日本を再建することを最大の念願とするのであり、この國民感情に立つて、民主々義の道を行く。社會主義の道を行く。私の思想に對する共産主義者どもの攻撃は大部分誹謗のかたちを以てだん／＼はげしくなつてきたが、私はもちろん一般的には

序

一

序  
民族的契機を、具體的には祖國日本を尊重する私の立場の方が日本革命の勝利を推進することを信じてゐる。

昭和二十一年十一月

佐野學

## 目次

- 一、民族のコースに沿ふ民主革命へ……………一
- 二、民主々義の三つの型……………一六
- 三、民主々義革命と思想革命……………二四
- 四、日本革命と民主的統一戦線……………四五
- 五、國民的動機と統一民主戦線……………六五

目次

一

六、民主的統一戦線の具體面……………	七六
七、マルクス主義を超えて……………	八三
八、日本歴史について——日本史學の變革……………	九五
九、日本史の一基本問題——封建主義段階の問題……………	一一一

## 民族のコースに沿ふ民主革命へ

### 一、忍苦の姿

わたくしたちは小學校（今は國民學校といふ）のじぶんから、日本はこれまで一度も外敵から侵入されたことのない名譽ある國だと教へられた。世界制覇者だつた蒙古人の襲來を撃退したのはたしかに偉大な出來事であつた。これまでの物質文明の發達の程度では東洋の東邊の島國日本に侵入するのは軍事技術的に不可能に近かつたといふ原因もあつたが、とにかく他國のやうに首都をとつたりとられたりすることの無かつたのは誇つてもよいことだつた。しかるに此度の敗戦によつてこの誇りは一ぺんに吹き飛ばされた。この誇りにもなつてゐた自惚れや空しい自尊や偏狹な排外主義も吹き飛ばされた。ちやうど阿片戦争によつて中國の數千年間つづいた中華天朝帝國の自尊的な妄想が一ぺんに瓦解したやうに。

敗戦といつてもわれ／＼の喫した敗戦はひどいもので、いま眼前にみるやうに政治はあるが如く無きが如く、生産は荒廢し、流通は不正常過程がむしろ普通事となり人民は飢餓にくるしみ、人心もすさんである。敗戦は單に科學力や軍事力の優劣の差だけが原因だったのでなく、明治以來散々に民主的勢力を壓迫してきた封建的諸勢力が政治經濟を獨占して人民の自由を縛り、人民は政府を信賴せずといふ國家にとつて致命的なことが、とくに戰時中に一その強度に發生してをり、日本はかうしてまづ自己の内部矛盾に敗れ、ついで外部に敗けたのだ。日本を敗戦にみちびいた封建的なものを刈りとることなくしては、たんなる敗戦以上の亡國になつてしまふ。いま世界には民主革命の波が高まつてをり、日本の民主革命もその一環なのだが、我々は流行を追うたりひとまねをしたり、ひとから強ひられたりするのでなく、生くるか死ぬるか絶對絶命の必要として民主革命をやらねばならぬのである。

日本が手をあげて、ポツダム宣言を受諾してからかれこれ一年たつ。食糧の絶對不足、インフレ、失業、生産衰頹の四大厄難は、人民の生活に自然現象のやうな猛威をもつてのしかかつてゐる。賠償の遂行過程に數十萬の失業者ができるといふことを議會で政府役人が説明した。われわれの苦しみはもつと増すであらう。

ひとはよく日本人が失神状態にあるとか虚脱状態にあるとか言うて罵る。わたしはそういふことをいふ人間こそ失神状態にゐるのだとかんがへる。日本人の今の姿は見やうによればじつは忍苦の姿なのだ。苦しみに負けると人間は頹廢し没落する。けれども苦しみに勝てば強い人間にきたへ上げられる。われ／＼日本人は苦しみに押しひしがれてしまふほど脆い民族だらうか。わたしはそう信じない。いま／＼のやうな自惚れや獨善や排外主義からきれいにわかれてしまはねばならぬが、なにもわれ／＼を劣等民族のやうに卑下する必要はない。

萬物流轉の法則は自然および歴史を支配する最も美しい莊嚴な法則である。今の國際乞食のやうな状態は永久の運命ではない。歴史の世界では人間の意思がその必然性を左右することが出来る。日本は再建されねばならぬし再建されるであらう。それには先づなによりも民主革命の徹底遂行である。

## 二、民主革命過程における非民主的なもの



聯合軍司令官はポツダム宣言にしたがひ日本における最高権力として臨み、昨年秋から日本の民主化についての指令を矢つぎ早に發した。軍閥は一舉に崩れ、官僚は萎縮し、財閥は解體されんとし、大土地所有も姿を没しかけてゐる。政治上の舊指導者たちは追放され、資本と勞働の地位は對等化し、農民は封建的桎梏から解放されんとしてゐる。これらを日本的に充實するのはわれわれの任務であるが、それはまだ十分に行はれてゐない。

世界における民主主義の具體的形態は三つあげられる。第一は英米流のブルジョア民主主義、第二はソ聯流のプロレタリア・デモクラシー、第三は中共の毛澤東の唱ふる新民主主義とか今日ソ聯周邊の國々でみられる所謂バルカン・デモクラシーなどの型である。世界の政治史にもつとも大きい貢献をしたのはいふまでもなくブルジョア民主主義で、どの國でもこの段階を通らずに社會主義へ到達することはできない。プロレタリア・デモクラシーはソ聯のまゝではまだ不完全であるが、暗示するところは大きい。封建的殘物の夥しい日本はブルジョア民主主義の諸原則を先づ身につけねばならぬのであるが、それかといつてブルジョア民主主義だけでもすむわけではない。日本はバルカン諸國などに比ぶればはるかに高い社會的條件をもつてゐるが、いまさら上

向的な資本主義に返つてゆく可能なく、さりとて直ちに社會主義に移行できぬといふ客觀的事情からみれば、その民主革命は範疇的にはブルジョア民主主義とプロレタリア・デモクラシーとの中間なる第三の型にぞくすると見てよいのである。われわれはかやうな日本民主革命の特殊性を考慮に入れつゝ聯合軍の民主化方式をうけいれねばならなかつたがわれわれの側で十分それを認識した人は少い。

民主主義一般の基礎條件は三つに要約できる。第一は個人の自律人格の自由と平等基本人權の相互尊敬、つまり個人的自覺であり、第二は超絶力に依頼せず人間自らの力を信じ人間文化を作ることであり、第三は人民のためにする人民自身の政治である。まへに述べた民主主義のいづれの具體形態のもとにおいてもこの三つが貫いてをらねばならない。

日本の歴史における封建時代は實に長かつた。平安朝の莊園成立時代から明治維新まで、時間的にいへば十世紀頃から十九世紀半ばに及んでゐる。日本は十六世紀の戰國時代までに封建主義を完全に生き抜き、國內の生産力の發達や商業資本の對外活動など、資本主義へ移行する條件があつたのだが、鎖國によつて變態的な封建制度に逆轉し、そのため明治維新後に殘留した封建主

義も一倍厄介な反動性をもつてゐた。

今日も民主主義の敵なる封建的殘存物は、單に政治經濟の場面だけでなく、社會制度にも社交にも、風俗習慣にも、傳統觀念にもわれ／＼の身邊にも、いなわれ／＼の心のなかにも深く巢くうてゐる。

このことは戦後の民主主義運動のなかに悲劇的にあらはれた。とくに最も民主的な組織であるべき労働組合運動や勤労者を基礎とする政黨運動のなかにむしろファツシヨ的支配と思はれるやうな現象（幹部の天下り指導、大衆の意志を無視する小兒病的觀念強制、党内デモクラシーの皆無、民族感情を踏みにじる外力依存主義等）が續出した。現在の吉田政府はどこからみてもポツダム宣言の要求するやうな民主的政府とは思はれないし、現在の議會は日本の最も優秀な民主的人物の集りとも思はれない。けつきよく我々自身が自己内部から封建的なものを追ひ出してゐないからだ。敗戦一周年來る。非建設的な小兒病的運動の波も靜まつた。民衆の生活危機は加速度をもつて増しつゝある。今こそ積極的運動のおこるべきときだ。われら何をなすべきか。

### 三、民族と階級

一切の改革は民族の線に沿はねばならぬとわたしは主張する。

この主張はすこしも階級を否定するものでない。むしろ階級の正しい機能を發揚するものだ。進歩的階級の退歩的階級に對する闘争はむしろ歓迎されてよい。民族の中心は進歩的階級であるからだ。從來の一部に見られたごとく階級利己主義的な破壊だけの階級闘争に代つて、民族再建のためにする階級闘争は盛に起つてよいのである。經濟安定本部の長官になつた膳氏は勞資の休戦といふことを提唱してゐる。資本家が民族再建のために資本家の根本特性たる私利私欲からきよく離れ得るなら、それもよい。むしろ必要である。生産の復興はわれ／＼にとつて至上命令であり、それなくして日本の再建はあり得ないのだから。しかし封建的な反動性さへたつぶりもつてゐる日本の資本家はその原始的な利潤欲から容易に離れ得るとはかんがへられない。資本主義のなほ上向的であるアメリカならばしらぬこと、敗戦日本の經濟の立て直しに資本家利潤制をそのままにしておいての勞資休戦案ならば、あまり得手勝手すぎる。膳氏は舊來の財閥本位的産

業秩序に代る、新しい、民族再建的な産業秩序を構想した上で、改めて勞資休戦を提唱するがよ

し。  
民族は永續的な本源的な生活共同体で、その傳統は大衆の間に保持せられてをり、だから大衆はしぜん民族を愛してゐる。大衆が民族を憎むといふ感情をもつことはあり得ない。資本主義の富み榮えた國では利益戰爭的な階級闘争は大に妥當性がある。しかし敗戦國になつて民族自身は落ちぶれてゆく現在の日本のやうな場所では、民族を立て直す目的をそなへた階級闘争のみが大衆に訴へる。大衆の本源的な民族感情こそ日本を敗戦國の苦惱から救ふ大きい心理的條件である。

#### 四、民族的契機を力説するものはすべて

##### ファツシストか

わたくしが日本再建のために民族的要請としての社會主義といふことを唱ふるに對し、極左主義者たちはこれファツシストなりと頭腦簡單な定義をしてゐる。第一次世界大戰後に第三イン

ナショナル及びその支部たる各國共產黨は自黨以外の社會民主主義者とその黨をすべて社會ファツシストなりと定義して至る所に労働階級の戦線を分裂させ、以てヒットラー、ムツソリニ等の本物のファツシストをして安々成功せしめたのは國際労働運動史上の一大悲劇であつた。こんどはこの經驗に懲りて各國共產黨は社會黨に猫撫聲で統一戦線を持ちかけ後者をして薄氣味悪からせてをる。日本では濃厚で眞面目な森戸氏が珍しいほどの激語をもつて共產黨の背信を責め、その救國民主戦線からしめ出した。私は當然、極左的階級至上主義に反對するのであるが、今日の日本において民族的契機を強く把握することがけつしてファツシズムにあらざる所以をすこし述べておこう。

第一、ファツシズムは民族的契機のみを力説し階級を無視するのである。ちようど戦時中の日本がそつであつたやうに民族至上主義なのである。これに反してわれ／＼は民族の中心が進歩的階級たる労働者農民その他の勤勞者であり、その退歩的階級に對するたゞかひを通じて民族の發展することを主張する。われ／＼は國民的利益と階級的利益との統一を主張し階級至上主義に反對する。

第二、ファツシズムは自民族が世界最優秀の民族であると妄想し必然に排外主義に陥る。我々は自民族の自主性をかたく主張するが、しかし個人の人権の絶対平等であるやうに各民族の権利も絶対平等であり、強國弱國たるを問はず各民族が相互の獨自性を尊敬し合ひ、平和に手を握つてゆくところに世界の進歩があることを信ずる。日本は世界の諸民族、とくに東洋の諸民族と平和に友好してゆく以外に、將來生きる道はない。だから我々は世界社會主義の理想を抱く。しかし現實には一國的規模において自民族の自力を以て社會主義を築くことを目的とする。

第三、ファツシズムは全體主義を主張し個性の自覺を基礎としない。全體主義とは獨裁主義の別名だ。ファツシズムの指導者原則なるものは獨裁好きの少數者の專制の合理化だ。我々は戦時中のがい經驗を通じて獨裁的指導者がいかに恐るべき害毒を流すかも知つた。我々は個性の自覺を最も基礎的なものと主張する。この民主主義に貫かれざるかぎりいかに體制だけ社會主義であつても獨裁主義が跋扈する。本物の社會主義は個人の自律を基礎とするものでなければならぬ。極左主義者はひとを簡単にファツシストと非難するがその黨の内部にはデモクラシーが缺けてをり、他に向つてさへ獨裁的態度をとり、それ自身ファツシスト的傾向を事實の論理として示してゐる。これでどうして民主革命の建設者たり得ようか。

第四、ムツソリニやヒットラーは第一世界戦争後のイタリーやドイツに現れた新財閥資本の代辯者として登場したのである。その巨大資本は戦争衝動に必然驅りたてられるから、代辯者達は復興戦争の煽動者になつたのである。日本においても荒廢した經濟の中から新しい財閥資本の成立する可能はないでもない。我々は中小資本の防衛者となるけれども巨大資本に反對する。又我々はファツシズム特有の戦争政策に反對し、平和國家の建設以外に日本が世界史に貢獻するものがないことを信ずる。

第一世界戦争後のドイツではユダヤ人がドイツ人の經濟的麻痺状態に乗じ闇をやつて暴富を積み、見るに見兼ねるやうな横暴をやり、それがドイツ人の民族的反感をそゝり、ナチスの成功を容易ならしめた。現在の日本において一部の人が闇を盛にやつて日本人のさらぬだに弱つてゐる經濟機能をかきみだしてゐるやうなことがあり過去のドイツの例と似たところがある。日本において本物のファツシズムのできる危険はけつして少くない。(もし聯合軍の壓力がなかつたら忽ち極右政黨ができるだらう。) われ／＼は民主主義の確立のためにファツシズムとはた／＼かはね

ばならぬのである。

## 五、民主主義革命の諸課題

敗戦後一年の経験にかんがみわれ／＼は民主主義革命の具體的課題を次々に解決してゆかねばならぬ。そのおもなるものを列挙してみると次の如くだ。

政治上――

①天皇の民主化。――過去二、三十年來の天皇制が軍閥財閥の階級的要具に悪用されたのは事實である。しかしこれをもつて天皇が階級的機關だとはいひ得ない。天皇制は歴史的に成立した民族的制作物たる性質がある。主權在民の原則のもとに天皇制を民主化しこれを人民權力機關に改造すべきである。

②有能政府、有能議會。――國民から信頼される有能な政府と議會をもつべきである。憲法改正をやつたら議會を解散して再選舉をただちに行ふことを要望する。民主革命の段階において議會は權力の源泉となつてよい。

③國民から信ぜられる黨。――革命はよい政府なしには完遂せられない。そしてよい政府はよい政黨なしにはできない。よい黨のあるなしが革命の成否を決定する。國民の進歩的エネルギーを結集し人民の心に十分訴へることができそれから信頼される黨の成立が何より急がねばならぬ。

④下からの民主主義。――議會だけでは人民の民主的意志を十分表現できない。封建的根源は都市にも農村にもなほ非常に深い。それをくつがへすことなしには國全體の民主化はできぬ。労働組合、村民委員會、食糧人民委員會その他の下からの人民的な民主的組織がどし／＼發展し、二重權力状態を現出し、下部からの民主化が徹底せねばならない。

經濟上――

①新産業秩序の形成。――生産の再興が民族再建の根本條件であるが、それは新しい産業秩序が形成されねばできないことではない。それは古典的な資本主義にあらず、又社會主義そのものでもないもの、通俗の言葉でいへば資本主義の長所と社會主義の長所をとり入れるもの、すなはち資本主義のよい遺産たる企業の合理性や産業設營の能率主義や流通の社會化を十分とりいれつゝ

一定程度の社会主義政策を行ふごときものであらねばならぬ。

② 経営協議會。—— 経営協議會の方式は各個の企業の民主化に必要なのみならず、更に擴大して各種の産業部門に設け、官吏、資本家、労働者、さらに消費者代表をも加へ各産業を民族復興の線に沿ふて發展せしめるやうに努力すべきであらう。

③ 國際貿易の速かなる再開。—— 資源の貧しい日本は國際貿易に身を以て突入するほかに生きる道がない。今、日本にはその道が閉ぢられてゐる。日本社会を不安の状態におくのは決して聯合國の利益でない。速かに貿易再開を許してもらふ、少くとも貿易再開の時期を明示してもらふことを要する。

④ 賠償。—— 戦敗國となつた日本は勇らしく賠償を支拂ふ義務がある。

#### 國家的獨立の回復

國家的獨立のない民族の間では實は眞の民主主義も社会主義も成立し得ない。奴隷に自由はあり得ない。ポツダム宣言は聯合國は日本人民を奴隷にする意思はなく、ただ眞の民主的政府の成立せざる限り軍隊を撤退しない旨を書いてゐる。だから國內の民主主義革命の完遂と國家的獨立

の回復とは相伴ふのである。われ／＼は國家を愛する。これは國家が個性の自由の保障者になるからである。獨立國家を要求するのは人間の本能である。愛國を口にする人は國家的獨立の要求者にならねばならぬ。

## 民主々義の三つの型

### 一

事物はつねにすべて具體的に存在する。民主々義だつてさうである。純粹民主々義または民主々義一般といふやうなものは現實に存在しない。世界史の大勢や各民族の社會的發達段階に應じて民主々義にはいろ／＼の具體的體型が出来る。

われ／＼のまへにはいま民主々義の三つの型がある。

第一は英米の古典的で完成的なブルジョア民主々義である。その世界史的貢獻はまことに大きかつた。

第二はソ聯にはじまつてゐるプロレタリア民主々義もしくは社會主義的民主々義である。いはゆるスターリン憲法はその成文化の第一歩である。この型の民主々義は未來の世界史に大きい貢獻をするであらうがいまはまだ初步段階にある。

第三は中共の首領毛澤東の主張する新民主々義や、ソ聯周邊の國々で現に實行されつゝあるいはゆるバルカン・デモクラシーの型である。これはもはや繁榮的な資本主義へ上向する條件がなく、さりとて直ちに全面的に資本主義を否定する社會主義革命に移行できない國々に行はれる。この型は第一及び第二の型の中間にあるものといつてよい。わが日本民主々義革命は範疇的にいへばこの第三の型に屬すると信ずる。

### 二

ブルジョア民主々義が、十七世紀のクロムウェル革命、十八世紀のフランス革命、十九世紀のドイツ其他中歐革命の過程を経て築き上げてきた政治構成とその人間文明への貢獻はまことに素晴らしい。それは資本主義發展の基盤に立ちつゝ、その促進者となり、また近代の人間的文化や科學の保障者となつてきた。主權在民、政治的自由、代議政體、三權分立などの政治的原則は人間を中世的なものから近代のものへ上向させた。

しかし萬物は流轉し展開する。もと資本主義の基盤の上に生長したブルジョア民主々義は、資

本主義の矛盾の深刻となるにつれてそれ自身も矛盾を深くする。マルクスは議會選舉は被壓迫者が數年に一回自分を蹂躪する人間を選む權利にすぎぬと嘲笑したし、エンゲルスは普通選舉は勞働階級の生長のバロメーターたるにすぎず、それ以上のものでないと言つた。レーニンのブルジョア民主主義に對する嘲罵に至つては深刻無比だ。彼はいふ、搾取する者と搾取される者との間に平等などはない云々、ブルジョア民主國に於ける自由とは、事實上富者の自由にほかならぬ云々、階級が廢止されない限り自由と平等一般に關する議論は自己欺瞞である云々、集會の自由とは富者のみの自由である。富者のみが最善の公私の建物と十分の時間をもつ云々、出版の自由も富者のみの自由である、富者は巨大の印刷所、莫大の紙の貯藏を有し、新聞を買收し、著作家を買收し、賄賂を以て輿論を製造し、娼婦的ジャーナリストを使つて利潤の爲の出版をする云々。レーニンのブルジョア民主主義批判はプロレタリア獨裁論にたつたのである。彼の説をもつと詳しく知りたい人は「獨裁と民主主義についてのテーゼ」「自由についての謬論」「民族及び植民地問題テーゼ草案」「第三インタナショナルと其歴史上の地位」「背教者カウツキイ」「國家と革命」などをお讀みになればよい。

## 三

社會主義は萬人生産者となる社會を作りだすことを目的とする。主權在民といふことはそこで強い現實性をもつやうになる。民主主義はそこで擴大され深められた形をとる。ソ聯は世界最初の社會主義的デモクラシーの一つの雛形である。

スターリン憲法は、大衆の最も直接的な民主的組織たるソヴェートが形式的權力でなくて現實的權力であること、民主的集中主義に立つこと、労働者も農民も平等の選舉權をもつこと、最高ソヴェート權力機關の選舉も間接でなく直接選舉であること、選舉者が代議員に對する召還權あること、民族が同權であること等、多くの特色ある規定をしてゐる。

スターリン憲法が現實に言葉通りに行はれてゐるかどうか、法律の形式規定と政治の現實とがピッタリ合致してゐるかどうか私はまだ十分それを知つてゐない。

ソ聯の社會主義はまだ完成的ではない。將來、社會主義が世界化したときには、民主主義は今日のソ聯におけるよりは、もつと高められた形をとるだらう。



## 四

ソ聯周邊の一聯の國々——ポーランド、チエコスロヴァキア、ユーゴスラヴィア、ブルガリヤ、ルーマニア、ハンガリー——の政治はまづソ聯のさしがねでうごくものとみてよい。これらの國々では土地革命と重要産業國有を中心とする民主主義革命が進行してゐる。モスカウ會議でアメリカはこのバルカン民主主義方式に異議をさしはさんだそうだが、やはりこれらの國々にも内的必然があつて、それがソ聯のさしがねで新しい民主主義方式を生んだといへる。これらの國々では資本主義の發展が未熟で且つ將來それが成熟する條件がなく、しかも國中にはなほ封建的遺物が濃厚にある。社會主義への發展には十分の條件がない。かやうな國ではブルジョア民主主義でもなく社會主義的民主主義でもない。その中間的な民主主義形態が妥當性をもつ。

毛澤東が逸早く新民主主義の理論を掲げて中國革命の行く手を定め公式マルクス主義者の偏見を戒めたのはゑらい。中國全體がこの理論通りになるにはなほひまがかゝるであらう。しかし國民黨の立黨理論たる孫文三民主義も、實質においては古典的ブルジョア民主主義の主張ではな

く、中國特有の社會條件に應じた半ブルジョア民主主義的・半社會主義的要求を含んだものだとといへる。しかりとすれば毛澤東の新民主主義理論の先驅者は孫文だつたとみうる。

さてわれ／＼の愛する日本の民主主義革命はいかなる範疇に屬するであらうか。日本は英米のやうに資本主義の富み榮えてゐる國でない。だから英米型のブルジョア民主主義がそのまま行はれる物質的條件がない。さりながらバルカン諸國のやうな後れた國と違つて、今は尾羽うち枯らしてゐるが、一度は上向的な資本主義を経験したし技術や熟練労働の蓄積は相當豊富である。そして民主主義革命を要求するのはブルジョア層でなくて、労働者、農民、都市小市民、精神労働者、復員者、學生、主婦等の廣汎な勤勞者大衆である。社會主義への經濟的、社會的、心理的條件はまだ十分でない。重要産業の國有と土地改革とは、日本を今日の難破状態から救ひ出し民族を再建するために、不可避のことである。國の封建的根源はなほ深い。上からの民主主義だけでなく、村や工場などの生産點からおこる下からの民主主義が廣く發展せねば封建的殘物を刈りつつてしまふことはできない。こゝろいふ點から考へると日本の民主主義革命は右にいつた第三の型の民主主義の範疇に屬するのである。しかしバルカン・デモクラシーや中國の新民主主義は參考

になつても、それを模造するやうなことをしてはならない。獨創が何よりも貴い。革命は一民族の命懸けの仕事である。模造革命、他力依存革命、他國第五列的革命は眞平御免であり、そんなことは有害である。そして事實上、日本民主主義革命における獨創性は次第に現れつゝある。労働者の經營參加運動とか農民の全村協議會運動とかにはそうした意味がある。更に續いて政府の構造にも國民大會のやうな制度の新設にも政黨の組織及運動にも、全産業秩序にも、教育制度にも、ジャーナリズムにも、男女關係にも、日本的な獨創性が生み出されねばならぬであらう。いまそれらのものには照尺をはずれたことが餘りにも多い。私はそれらについての獨創を、有名などでない、また運動すれしてゐない、清純で情熱的な若い人々の層に期待する。

もとより私はブルジョア民主主義の諸原則の實行にすこしも反對するものでない。寧ろ出来るだけそれを廣くとりいれることを主張する。議會を權力母體とすることや總選舉のくりかへしによる政治的訓練や、諸種の政治的自由の確保などは今の段階においてぜひ必要である。それらは皆勤勞者大衆の政治力の擴大に役立つ。ただその根本のねらひは、社會主義への移行を準備するところの民主主義の徹底でなければならぬ。けつきよく社會主義でなければわが民族の本當の建

て直しはできないのであるから。

## 民主主義革命と思想革命

## 一、革命的民主主義とその思想的肉付け

敗戦、神聖化されてゐた傳統の崩落、ポツダム宣言による民主主義の強行、人民の窮乏、生産の停頓、社會のそここに口を開いてゐる深淵、——現實日本の姿は見るからに凄しくも物悲しい。然し他方において言論の絶對自由、彈壓法令の消滅、財閥解體、大土地所有消滅、舊政治指導者の没落等の目ざましい無血革命が進行してゐる。現實は、巨大な怪物の如く疾足に民主主義革命の大道を進んでゐる。しかし革命は外力の支援からだけでは完成されない。日本人自身の創意的活動なくては内容が空洞となる。

人は日本人がまだ虚脱状態にあるといふ。それは嘘だ。日本人自身の創意的活動は新しい泉の噴き出すやうに既に始まつてゐる。都市における労働者の争議や労働組合運動や經營参加、農村における村民委員會の活動がそれを表徴する。このことは來りつつある民主主義革命の主導勢力が資本家階級や小ブルジョアインテリでなくして労働者農民を中心とする生産者大衆であることとを端的に示す。敗戦日本の經濟の基本線はもはや資本主義であり得ない。いかに現在資本家が生産をサボタージュしてゐるか。それは個々の資本家の無良心によるが、客觀的にはもはや資本主義の生命の枯れてきたことを意味する。又日本の政治は議會制度を中心とするブルジョア民主主義體制だけでは解決できない。經濟における生産者の産業管理、政府における人民委員會中心の人民權力の創設、これが日本の民主主義革命の辿つてゆく大道であり衝動である。歴史上に見られた型通りのブルジョア民主主義でなく、ロシア革命の初期や中共指導下の中國革命過程に見られるやうな、生産者大衆本位の革命的民主主義の道を日本は進む。日本はもはや一流の資本主義國でなく、少くとも戦前なほ上向線上にあつた如き繁榮資本主義の俤の消え失せた、貧乏な落漠たる國である。その民主主義革命は豊かに富んだ國々で行はれる紳士風のものでない。國の精力の泉源は貧しさに堪ふる力を具へた生産者大衆のなかにある。

生産者大衆の精力は今後自然發生的に積極的な奔出をするであらう。その運動は思想的裏付を要求する。自然發生的なものを目的意識的なものに轉ずるには思想がいる。畫龍點睛の役割をす

るのは實に思想だ。思想は火事場の跡片付をするやうに事件の起つた後、その過ぎた後にそれを客觀的に觀察し整理するだけの後思惟オパデシケンであつてはならない。現實の中から生れ現實を導く精神的な糸たるべきだ。現實に有用でない思想は遊戯にすぎない。現實を肉付けする思想は鋭利な武器である。

不幸にもろく／＼の黨の運動、労働者農民の運動にまだ確然たる思想的根據が乏しい。古いマルクス主義、古い組合主義などの思想的ガラクタが惰性的に踏襲されてゐる。他方において過去二十年來の日本を毒し來たつた非合理主義、神祕主義、直觀主義などの神がかり思想は、その支柱たり要求者であつた軍閥の瓦解と共に急速に退散しつつあるがまだどこやらにその餘焰がくすぶつてゐる。

ただ現實の間に合はせるだけの思想は新しくてもほんとうの役に立たない。そうしたオツポチユニズムで救はるべく日本の現實は餘りに深刻だ。自然及び人生のあらゆる側面における新たな意識的思想的把握が要求せられる。思想は現實のためのものであるがそれ自身として独自の革命過程をもたねばならぬし又それが許される。

私は社會主義を奉ずる。社會主義には色々の型がある。マルクス、レーニン主義が最も卓越した政治原理だといへるが、しかし私はもう子供のやうに又宗教信者のやうにその普遍的原理に執着してゐるわけにゆかぬ。餘りに經濟主義的な唯物史觀はそのまま信するわけに行かぬ。私は人間の意志活動もしくは活動衝動を重んずる。日本の現實そのものを思想の基準にとる。毛澤東がマルクス、レーニン主義の支那化を要求したやうに、我々はその徹底的な日本化を要求する。

我々の眼前に差し迫つてゐる民主主義革命を完全に貫徹するためには生産者大衆の現實運動と並んで、むしろ之を深化するものとして思想革命をして之に伴はしめねばならぬ。社會的關心を有する讀書人は街頭に民衆と共に在るの良心を以て新しい時代的思想の發見、把握に進むことが要求される。この貴重な分業は有閑事ではなく、有閑者の果し得ることでない。

## 二、人間概念の變革

民主主義革命を裏付ける思想革命は先づ人間概念の變革から始められねばならぬ。これまで超絶力を信賴する中世的神祕主義がいかに日本人の人間觀を歪め、その精神生活ひいて社會生活を

暗鬱にしてきたことであらう。

民主主義革命は人間主義文化の創造を目的とする。それは人間が超絶者の信仰から離れ、自然と人間の限界を正しく守り、人間の価値を信じ、人間相互の尊敬と信頼に立ちつつ、その能力の最大限を發揚するにある。神であれ悪魔であれ、人間を超絶する、人間に親しみのない力はもう御免である。(神や悪魔がありとすればそれらは人間の内部にこそある。) 神祕主義の支配の下にいかにも日本人の知性は曇らされてきたことか。非合理的な超絶者信仰は、科學への衝動や憧憬をもたぬ、批判的精神の缺けた偏情的な人間を作り出した。

人間は肉體者である。肉體に根本悪を認めるのは中世的思想の遺産にすぎぬ。感性こそ人間の生の喜びの源泉であり、知性の衝動も個性の成長もそこから生れる。歴史は超絶者を中心として回轉するのでなく、感性的人間の生體的活動の作り出したものである。

社會は人間への威壓者でない。人間は受動する客觀的な物ではなくて、創意的活動の主體である。社會は一の全體者であるが、社會を構成する、もはや還元すべからざる單位は個人であり、その獨立人格の自由が完全になればそれだけ社會は發達する。この人間の根本價值に眼を開くこ

とはこれまでの日本では禁物であつた。血なまぐさい戰爭的人間、機械のやうな國家的人間が理想的人間の型とせられた。個人的自覺にもとづかぬ自己犠牲が最上の美德とせられた。權威主義的に編制せられた社會的秩序が自由の意識を窒息せしめてゐた。かかる權威主義から解放された自由な民主的人間の創出、戰爭的人間から社會的人間への轉化が何よりも要求せられる。社會的人間とは平和裡に勤勞を交換し相互の尊敬と愛の中に生きる人間である。同時に近代人は國民的人間である。正しい意味における國民的人間はこれまでの日本に強制的に作り出されたやうな國家的人間とは違ふ。權力の本來の機能は、社會生活を合目的に統制するにある。かかる權力の組織體としての國家を尊重し、愛し、自覺的にそれに献身するのが國民的人間である。

我々は空想や激情に幻惑されない現實主義的人間を要求する。それは歴史や傳統への輕蔑を意味しない。歴史や傳統は現在のなかに生命を持續する限りにおいて價值がある。現實主義的人間は、現實任務の解決の途上においてそれを生かし、それらのなかに永遠を把握する能力をもつ。我々は生産者の人間を要求する。社會の一切は生産と之に任ずる生産者の基礎の上に發展する。

これまで生産者は歴史の潜在的基盤であつたが、今はその顯在的主人となるべきである。萬人生産者となる。生産的活氣の溢るる社會を作らねばならぬ。

人間には賢愚の別があるが、人間としての基本的權利も義務も絶対平等である。我々日本人は英雄を特に好む民族である。しかしいはゆる英雄には偽英雄があまりに多い。天才といへども他人を蹂躪することを許されない。かれらの中には卑小なる功利主義者や好殺的な蠻人的性格や貪慾なるエゴイストが少くない。天才や英雄はその功業、理想、信仰、心理、制作が人間的であり社會的である限りにおいて有んで、尊敬に値する。

### 三、國家理論の變革

これまで國家至上主義が日本人の精神的發達を片輪にし或る時は狂人にした。個人的自覺に基礎をおかない、むしろその窒息を條件とするやうな全體主義が横行した。昭和時代に入つてから帝國主義の勝利と共に國家構成の非民主制が擴大した。議會は憐れにも封建的勢力に迎合してそれ自ら封建性を帯び、地方自治は資本家及び地主の代表するボスの巢窟となり、官僚とその政府

とは國民から遊離し、軍閥と財閥は相結んで戰爭中にあらゆる悪事を働き、天皇は人民と全く疎隔して反動の要具となり、これに對する批判の自由は寸毫もゆるされなかつた。天皇制に對する批判の自由の禁止は、その背後にある軍閥財閥その他の封建勢力に對する批判の自由の禁止を意味した。本來の日本國家は明白な階級支配國家であつた。人民は國家の奴隸、實際は反動階級の奴隸であつた。神祕主義的な神權君主説や、日本の萬國優越論や、日本製のファシズム的強力國家理論などが階級支配の真相を巧みに蔽ひかくした。

過去の日本の公許の國家理論、反動階級の惡煽動から生れた民衆の間の國家至上主義的氣分などは一掃されねばならぬ。國家と社會との正しい關聯が理論づけられねばならぬ。

國家は權力の組織、社會は勞働の組織である。兩者の調和的發展によつて歴史が進歩する。權力はその正しい機能においては、勞働を統制し組織し高度化する作用をする。然し歴史上の事實として、權力は屢々暴力的に作用し、これに由る國家と社會との遊離疎隔がどの國の歴史にも見られる。國家と社會とは背馳することを本質とするものでなく人間生活の二大形式たるものであり、二者が形式的にも一致融合することが將來實現せられる歴史の約束である。これを國家の社

會化と言ひあらはしてもよい。

國家は力の機構であり、意思的制作物である。個人の自由、自覺、固有の人權、批判的精神などが基礎となつてをらねばならない。然らざれば國家は容易に反動階級が國民を愚煽動する道具となる。これまでの日本では反動階級はただ呪文のやうに、國家といふ言葉さへ使へばそれでよかつた。個性的自覺と判斷力をもたぬ國民は酔ふたやうになつて躍り上つて殘虐な戦争にも同胞虐殺にも參加した。尤もいくら羊のやうに馴養された日本國民でも第二次世界大戦の中頃から厭氣がさして、支配者階級の叫喚、懷柔、彈壓にも拘らず政治的無關心となり怠業を始めた。戦争に負け舊來の國家が實質的に崩解したのは當然であつた。

國家の主權は人民に在る。生産する人民大衆なくして國家も歴史もあり得ない。國家は人民のもの、人民が國家の主人である。天皇即ち國の理論はもう通用しない。本來の帝國憲法は天皇を中心として書かれてある。しかしその巨大な権力と神聖化されてゐた權威とは、ポツダム宣言の受諾及び神道と國家との分離の指令によつて、二つながら崩れ落ちた。本來の憲法の中心部分が崩解したのだから今日、無憲法状態にあるといつてよい。憲法改正は新憲法制定と均しい意義が

ある。そこには主權が人民にあることが明記されねばならぬ。國家權力の本質は人民權力でなければならぬ。天皇制は人民權力の代行機關としてのみ存続せられる。

民主主義國家の權力は議會にあるといはれる。しかし議會制度は歴史的に見て既に老衰した。

ブルジョア革命の指導者たる資本家階級が老衰したやうに。來りつつある労働者農民を中心とする革命的民主主義の時代における權力形態はソヴェトの意味を有する人民委員會を基底とする人民大會であるであらう。それは議會よりも一層高度の民主的組織であり、人民の下からの意志を最も直接的、最も総合的に表現する。天皇の即位退位、首相及議會代議士の罷免、國家に重大な損害を與へた政治家に對する裁判などがその手中にあつてよい。

國家的獨立の意義は何よりも高く評價されねばならぬ。國民は敗戦を喫し外國軍隊の駐屯を身を以て體驗するに至つた。しかしこれを排外主義に導かずヒットラー式復讐主義の勃興を嚴に戒めねばならぬ。我々は聯合軍の民主主義革命への偉大な援助を感謝すると共にポツダム宣言を完全履行して外國軍隊の撤退の日を早めたいものである。國家的獨立なくして個人の獨立人格も民主主義も社會主義もあり得ない。

私は國家的獨立の要請と關聯して、一國々々のもつ意義を強調する。世界は多くの國々より成り、その綜合的發展が世界史を成立させるが、各個の國家は外力に依存することなく、又他國の動向に左右せられることなく、自國の創意性を發揮して獨自の歴史を形成せねばならぬ。資本主義から社會主義への轉化も亦然り。最新の共產主義は一國社會主義に外ならぬ。

階級的なものと國民的なものとの調和が政治を正しく推進せしめる。もし階級一點張りに執着するならばたとへ進歩的階級を背景とする運動といへども陰慘な冷たい、復讐的な派閥的なものに墮落し大衆の嫌惡を買ふ。大衆は自然的な愛國者だ。我々は階級的なものと國民的なものとの自らの中に調和してゐる大衆の本能を尊重し、それに従ひ且つそれを高度化することに努力したる。

#### 四、日本歴史における觀念變革

時間的に過去に生産された人間業蹟で現在まで制度及び觀念のなかに生命を持続してゐるもの

が歴史の名に價する。我々の胸の中に復現できぬものは、死過去であり歴史でない。されば史學とは現在をより深く知るための學に外ならぬ。人間は歴史のなかから生長してきたものであるから歴史を知るとは己れ自身を知ること、歴史を愛するとは自分を愛することを意味する。

歴史は東洋において最も傳統の長い學問で、支那の史學を師としたが、日本でも朝鮮でもそれ／＼特色ある史風が發達して不朽の價値ある作品を残してゐる。日本では明治年代に西洋史學の方法が採り入れられたが、社會上に反動的封建勢力が跋扈し進歩的勢力が抑壓せられたことを反映して、史學は科學として發達するよりもむしろ階級的抑壓や軍國主義や戰爭政策の思想的道具に供せられる慘狀を生んだ。特に過去二十年來の日本史學の墮落はひどい。神勅天孫降臨、三種の神器、等々が何の批判もなく歴史の端緒に置かれた。天皇は歴史を超越する神的存在で、日本の歴史は天皇を中心として回轉する。天皇の統治する日本は世界に最も優越し、世界は天皇の神的支配の下に立たねばならぬ運命を有する、等々の不合理で、妄想的な神がかり史觀が横行した。虫くひの古文書をひねくりまはす古ぼけた頭腦をもつた歴史家が、實は最新の帝國主義イデオロギイの尖兵の役割を勤めた。無謀きはまる精神力主義、知性の麻痺と恐怖、科學の退歩、民衆の



知國主義的幻想、軍人の無遠慮なる跋扈、安々とは行はれた帝國主義戰爭政策、支那に對する財閥資本的侵略——在來の神がかり史學はこれら一聯の事實に責任がある。

歴史の基本要素は勤勞する人民大衆である。歴史とは過去に生産された人間業蹟のうち永遠の今として現在も我々の胸に生きつづけてゐるものを指すこと前述の如し。それを再発見する史學は民族に正しい力と希望と喜びを與へる。我々は慘然たる祖國の現状を顧み日本再興のために正しい日本史學を建設して之を武器とせねばならぬことを痛感する。

正しい日本歴史の任務、目標、方法等について次の事が要求せられる。

(1) 嚴格なる科學的立場からの文献批判。記紀の記載における自然人の間のお伽話、故意になされた政治的宣傳、(これが非常に多い) 藝術的空想等を取り去つて、社會學、考古學、神話學、支那史學の知識を参照して、我が上代人の社會的生活、征服國家の起源、原始的民族性格、自然との鬭爭等を古典のなかから探り出すことが必要である。同時に記紀其他の古典がいかにかに悪用されたからとて、その全體としてもつ價値を没却せんとする否定マニヤに陥つてならない。

(2) 世界史的基準への從屬。世界は多くの國々よりなり、それ／＼獨自性を發揮して世界史の發

展に貢獻する。在來の日本史學は日本を孤立的なもの、もしくは萬國に優越するものといふ獨善的排外的觀念をふりまいた。世界史の一員であるといふ謙讓にして正しい思想を以て日本の過去、業蹟、罪過が世界史的基準において見直されねばならぬ。殊に同じ東洋社會の範疇に屬する諸民族と、我が民族との政治經濟的、社會的、文化的交流が平等と友愛と科學の精神を以て見直さるべきである。

(3) 發展法則。一民族の歴史にはその發展の基底となるごとき法則がおのづから生じてゐる。歴史法則としての必然性をもつと共に、人間意志の能動によつて純機械的な自然法則と異なる規範性、目的性をもち、且つ法則自身に發展する。日本における歴史法則としては、封鎖國的典型發展の法則、國家と社會との不均衡の法則、民族の階級に對する優越の法則、權威主義的社會秩序の法則、傳統的強烈の法則等があげられる。日本の軍國化の種子がその中に含まれてゐないことはない。しかし歴史法則は運命ではない。人間意志によつて更改し得られる。我々は我々の過去を律した歴史法則にそのまま服従する必要はない、却てそれを打ち破つてゆくところに歴史の進歩がある。

(4) 發展段階。萬物は流轉し歴史は生成的に發展する。各民族の發展はおのづから世界史的法則に従ふ。古代の前に中世があつたり、近代に續いて中世が現れたりすることはない。發展としての原始共產主義、第二段階としての古代の征服國家の成長、第三段階としての中世の封建主義、第四段階としての近世資本主義、かかる大まかな發展法則は日本史においても當然みられる。その特殊性を見極めることが重要なのである。歴史は超歴史の力によつて作られずして人間が、具體的には生産する人民大衆が作る。歴史が天皇を中心として回轉したとする非發展思想は發達段階の科學的追究によつて消滅する。

(5) 天皇中心の歴史より人民中心の歴史へ。歴史の基本要素は君主や英雄でなくて人民大衆である。生産者なくして歴史も國家も社會も成立しない。日本史が天皇を中心として回轉したといふのは明白に嘘であるし天皇自身の本質も歴史上幾度か變遷した。日本史は人民大衆の物質生活、思想、階級的位置、國家との關係、その國民的感情などを基準とし、書き直さるべきである。

(6) 國家中心の歴史より社會中心の歴史へ。社會ありて國家がある。國家だけを抽象したり、これを社會の上位に置いたりするのは、科學的に片輪であつたり觀念倒錯であつたりする。從來日

本人は餘りに國家一方に自己を捧げすぎた。軍國主義の要具となつた史學は此方向を惡煽動した。在來の國家中心の歴史は社會中心の歴史に轉化せねばならぬ。これこそ正しい國家主義を導き出すものである。

(7) 個人的自覺の歴史へ。東洋社會は西歐の十六世紀のルネサンスにおける如き強烈な個人的人間的自覺を経験したことがない。日本在來の過大な權威主義社會秩序は個人の基本人權、個人の自覺などをとりあげることをしなかつた。しかしこれら課題は人間の根本衝動であるから日本においても民衆の間の下からの民主主義の慣習、民主主義欲求の闘争、社會生活や學藝における優秀なる個人の指導的役割等を缺いたわけでない。個人的自覺を基本線として日本史を見直すことは不可能でないし又やらねばならぬことである。

(8) 古代史及び明治史の再検討。事物はその出發點において素朴的新鮮を以て其後に展開する本質を露呈する。この意味で日本古代史の真相ができうる限り科學的に究明されねばならぬのに拘らず、舊來の史學は神話をそのまま端緒に置き、従つて一舉に日本史全面の把握及び描寫の科學的操作を不可能にした。神話は科學の客觀的研究の對象とならねばならぬ。日本國家の征服的起

源、権力における北方アジア遊牧的要素と労働における南アジア農耕族的要素、支那及び朝鮮との国際交通のもたらした物質的精神的影響、クリルタイ式労働形態、古代天皇権力における君長選挙的民主性と征服者首領的強力主義との混淆等が古代史の基本問題である。徳川時代までの日本を舊日本と呼び得れば、明治時代以後の日本は新日本と呼びうる。新日本の發端たる明治史は特別に現代的關心を以てする研究對象となる。今日の悲劇をもたらした諸要因は明治時代にふくまれてゐる。封建勢力の強き殘存とその罪惡、財閥を中心とする日本資本主義の偏曲的な發達過程、それらに對抗して自由民権の旗の下に戦つた民間の民主的勢力、福澤諭吉、中江兆民の哲學にあらはれた如き個人的自覺の追求、早稻田、慶應兩大學を中心とする非官僚大學の政治的思想的貢獻、人民の眼蔽くしされた状態、階級的抑壓、社會主義運動の萌芽、日清日露兩戦争における國民主義的なものと侵略的帝國主義との交錯矛盾等に諸問題がある。

(9)日本精神の新解釋。戦争中、日本精神と言葉が亂叫され日本の萬國優越論への奇怪なコヂツケの道具となつた。御用學者や御用文筆業者の骨折にも拘らず民衆はそれほど此言葉に感動しなかつたが、しかし民衆の眞の精神的自覺力を鈍らせ、情感を乾からびさせる役割をした。我々は

後始末として、戦時濫造の日本精神論を洗ひ流してしまふと同時に、民族性格、民族哲學、民族理想等の意味を含んだ日本民族精神の具體的内容を明かにする必要がある。生成主義、行爲主義、勇氣、情熱、人情、藝術的才能の長所について追體験的に内容を深むると共に、思索力の缺點、權威盲従、個人的自覺にもとづかざる全體主義的低級道德、淺薄なる附和性などが痛切に反省されねばならぬ。

### 五、道德觀念の變革

忠君愛國の美名を濫用する全體主義道德が餘りに強くこれまで日本人の精神生活を縛りつけてゐた。個人の價値や自覺に基礎をおかず、殊更に人情を矯めた形式道德が支配してゐた。元來我が民族は道德の根源を理性よりも感性や情感に求むる自然主義者であつたが、資本主義の變則的發展と帝國主義戦争政策とが偽瞞と偽善に充ちたテチス張り全體主義を國民に強要してゐた。それは日本人の本然に立つものでなかつたから、國民は腹背面従となり、事實においては道德的に墮落してゐたのである。

民主主義革命の過程において新しい道德觀念が樹立されねばならぬ。私は次のことを要請する。

(1) 自然主義道德へ。人間の道德へ。私は人間が天性倫理的生物であるといふやうな樂天觀を有してゐない。又人間は罪の子だといふやうな悲觀的人間觀を有しない。人間は天地と同じく自然に屬する。自然には人間の價值づけるやうな善惡はない。而して自然の根本的衝動は生成力にある。生成自身は絶對だ。これを原善といつてよい。人間の基本的本能もまた生成の衝動である。創造的、生産的、業績的であることが善であり、反生成、非生産的、醉生夢死が惡である。生成の衝動は盲目的で理知的思考のまへに先づ行動する。盲目の衝動に自身を任せるとき利己に墜落する。倫理的とは人間が利己でなく、社會全體のために生成的、創造的、業績的に生死することをついふのだ。眞の自然主義道德はおのづから愛他主義を含む。民主主義は超人間力を否定し人間自身の力を信じ、人間的文化の創造を目的とする。人間の創意による、人間自身の繁榮をもたらす道德が眞の道德である。自然主義的道德と人間の道德とは一致する。

(2) 自我道德へ。自己超克道德へ。生成者は自我者である。生成する者にのみ個性がある。生成せざる者に自我はない。民主主義の基調たる個性の自覺とは生産し生成する自我に外ならぬ。善への道は生成の徹底にある。それは利己の征服にある。眞の社會性の基礎はかかる自我にある。民主主義も社會主義も自我意識を缺いて求められない。自我的自我を基礎にした社會にこそ歴史がある。平和と文化とは個性の自我的努力なくして現れない。生成的自我者は最も峻烈に自己内部の弱さ、惡、利己と戦ふ。自己超克、自己訓練、自己苦責、照顧脚下、それを通じて生成が實現し善へ到達する。人間に利己的動機が強い限り人間は倫理的生物でない。倫理的生物ならざる故に自己超克を通じて倫理的になれといふのである。

(3) 社會道德へ。國家道德は社會性を基礎としてのみ道德としての價值をもち得る。今までの國家道德は片輪であつた。社會道德の根本内容は妥協や調停にあらずして人間が平和に勤勞を交換する協働にある。人間内奥の生成力を最大限に奔放させ自我を徹底せしむる條件は協働に外ならぬ。社會の現實的な人間關係として我々のまへに階級がある。階級には進歩的階級と退歩的階級がある。社會道德は進歩的階級の意志、意欲、理想追求等に立脚する。同時に人間は國民として生活する。それ故に社會道德の理念は階級的思考と國民的思考との正しい調和を含んでをらねば

ならぬ。日本の世俗道德の中心をなしてゐた家族道德や義理人情の道德や忠君愛國道德や自己犠牲道德は社會性の基準において新たな本質及び形態が與へられる。

人間的、自我的、社會的道德は萬人生産者となり相協働する社會主義の活動的社會において最もよく發揮せられる。民主主義革命段階がそれへの過渡をなす。特にこの段階には在來の道德における非人間性が除去され、自我發揚の道が確保せられる。

倫理もまたはじめから世界的でない。普遍的なものを含みつつも、各民族によつて倫理の具體的形態は異なる。倫理もまた一國的に實現せられる。一國社會主義はかかる倫理的基礎づけを要求する。かかる具體的倫理が將來人類の實現する世界國家、世界倫理を用意する。

## 日本革命と民主的統一戦線

一

敗戦を境として日本の現實は根本的に變つてしまつた。一切の思想と運動とが具體的な意義をもたうとする限り終戦後の新しい現實に立脚しなければならぬ。ただ外國もどきの考へ方の輸入や過去からの傳統的な運動方法がいかに駄目であるかといふことは、近時の焦點的問題の一つである民主的統一戦線の問題についてもはつきり現れた。あらゆる民主的勢力が結合して舊來の封建勢力を徹底的に打破するのみならず戦後の國民的課題の解決について協力することは民主主義革命を完成するために重要な条件の一つで、すゝぶん熱心に叫ばれてゐるのに、今のところ障害条件の方が多くて捗々しい足どりを示してゐない。その原因としては、中共や歐洲共産黨の戦術を何の日本的創意なしに、輸入しようとする非積極性や、依然たる自黨本位のため籠り主義や、他黨のスキをねらつて自黨を擴張しようとする不誠意や、國民的な一般的な動機を把握しそれに

忠實であらうとする精神の缺乏や、要するに終戦後の新現實に目さめた新鮮さや心の廣さが足りず、古い悪い傳統から抜け切れないからである。一方、現實の方は巨大な怪物の如く疾足に進み、食糧不足、インフレ、失業等からくる人民の貧乏は今や止め度がなくなつてゐる。

終戦後の日本の現實、日本がこれから體驗しようとする新しい歴史は、單なる改革時代といふ言葉で表現できない。まさに革命時代といふ言葉がふさはしい。そしてこれは單に一國的意義を帯びるだけでない。日本の民主化は世界を蔽ふ民主主義革命の一環であり、それはただの一環以上にもつと大きい意義をもつてゐる。今世紀における世界史的意義ある革命は第一にロシア革命、第二は支那革命であるが、敗戦を契機として奇しくも第三に日本革命といふ新しい範疇が世界史の日程に上つてきたといふことができる。

## 二

大戦争があると、敗けた國に革命の起るのは歴史的通則だといつてよい。敗けた國は、元來その内部に矛盾があり、戦争中にそれが一層鋭くなり、更に戦争によつて新しい矛盾がつけ加り、

それらが重なり合つて收拾がつかず、先づ内部で自分自身に敗れる状態が生じ、したがつて外に向つて敗れるのである。日本の敗戦もまたまさにそれを證明する。軍閥財閥を中心とする封建的勢力の政治獨占、國民と東亞諸民族の犠牲においてする大資本家層の戦争企業、國民の自由の一切の壓服、國民と政府との遊離疎隔等も、これで戦争に勝てるわけがなかつた。第一次世界大戦の末期——一九一七年三月乃至十一月——にロシア革命、その終戦と共にドイツ革命（一九一八年十一月）が起つたのは人の知る通りであるが、それは今日のわれわれにとつてよい参考となる。

レーニンは、革命の條件に三あり、第一は舊權力が瓦解して統制力を失ふこと、第二は經濟秩序が壊滅して人民の生活窮乏が救ふべからざる状態に陥ること、第三は確乎たる綱領を有する革命政黨の存在することであるといつた。ロシア革命にはレーニンの指導するボリシェヴィキ派があつて革命の指導権を握りその努力によつて世界最初の社會主義國家ができた。ドイツ革命では社會民主黨がその組織力と傳統力を發揮して終戦後久しからずして自黨内閣を組織して社會的混亂を取り鎮め、ワイマール憲法の制定その他大にドイツの民主化に努力したのであつた。

が、元來、同黨は改良主義的議會主義の黨であつたので、フランスのボアンカレーがドイツ憎惡の一念でヴェルサイユ條約を殘酷に強行するに對して次第に高まるドイツ人の國民意識を正しく捕ふる事ができず、つひにヒットラーからしてやられ、折角のドイツ革命を臺なしにしたのである。日本では終戦に際してポリシエヴィキ派のやうな強い黨はなかつたし、ドイツ社會民主黨のやうな組織力ある黨もなく、舊い反動勢力と内面的に腐れ縁を持つ、半封建的な、人民的基礎のない東久邁宮・幣原兩内閣が、渦まく民主主義の波になんら新鮮な感覺をもつことなしに、その日暮しの政治をしてきてゐる。我國にはレーニンの數へた革命の第一、第二條件即ち舊權力の瓦解と激化してゆく人民の生活窮乏とはあるが、第三の條件たる強い指導的な革命政黨が無いのだ。幸ひに聯合軍の権力があつてポツダム宣言にもとづき矢繼ぎ早に日本の政治、社會、思想の各方面において民主主義の大枠を定めてくれてゐるが、この枠の内容を肉づけ生命躍動するものたらしめるのは日本人自身の創意的活動の外にない。

人は日本人はまだ失神状態にあるといふ。しかし私はもう既に失神状態から醒めかけてゐることを看取する。労働者の間に自然發生的に起りつつある經營參加や生産管理の要求、農民の間の

供出の人民管理の要求などこそ日本人の民主主義への創意的活動の端緒形態といふことができ、(それに類する人民運動が農民や都市市民や戦災者などの層にも見られる。)創意的活動といはれ得るものが資本家や官僚や學者の層から起らずに勤勞する大衆から起つてきたことは將來の日本の成り行きに重大な暗示を與へる。しかしこの日本再興の原動力となる大切な運動も正しい指導がなければ單なる階級運動に終つてそのなかにある國民的動機が十分燃え上らずに終る危険なしとしない。何れにしても指導力ある國民的前衛の黨の缺乏してゐることが、痛心事である。

## 三

革命といふと十八世紀末のフランス大革命がすぐ念頭に浮ぶ。そこでは朕は國家なりと豪語してさしも繁榮を極めたブルボン王朝が國民の力で叩き潰されルイ十六世が王妃もろとも斷頭臺上の露と消え、零落した貴族がイギリスやオランダに逃げ出し、田舎貴族の邸が焼討されるなどのことがあつた。十七世紀の英國革命では戰鬪的共和主義者クロムウェルがチャールス一世を死刑に處した。ロシア革命ではロマノフ王家の者は行方不明になつた。(これらの諸君主は皆人民の

敵であつた。)

即ち革命といふと流血とか王位の斷絶とかいふ聯想を伴ひ易い。しかしこれは決して革命の必然的條件ではない。元來、革命とは政治、社會、經濟、精神生活を支配してゐた古い原則が崩壊し、これに代つて新しい原則が急スピードで支配するに至る過程をいふのである。社會は不斷に生成發展するが、矛盾が平和な方法で解除されないと、通常的發展に中斷がおこり、いはば大爆發をおこして急激な方法で矛盾を解決し新たなより高い發展を用意する。これが革命である。それは最も顯著に權力形態の更替として現はれる。しかし歴史の動向を洞察する聰明な政治家があり且つ強固な國民的團結を有する民族にあつては革命は流血なしに行はれるのである。革命そのものの内容が充實し得るならば、流血革命よりは無血革命の方がよいのは當りまへである。日本には十分その可能がある。

## 四

日本革命の基本内容はどんなものであらうか。一言にしていへば、民主主義を徹底して社會主

義へ内容的に發展することにある。個人の自覺、獨立人格、基本的人權、といふやうな民主主義の根柢をなすものは、これまでわれわれ日本人の間では餘りに脆弱で、上部の權威や命令に無批判に盲従する惡傳統があつたため、軍閥及び財閥を中心とする中世的な封建的勢力がいつまでも政治と經濟の中樞を握つて日本の正常な近代的發展を妨げ、つひに今度の大戦争に國民を引きずり込み、民族に大苦痛、大不幸を與へたのである。この封建勢力と政治經濟における、中世的機構を徹底的に打破し、基本的人權の原則に立ち、言論結社の自由、その他の政治的自由、人身の自由、罷業の自由、廣汎な男女の選舉權、議會中心政治、政黨内閣、中小企業家の經濟的活動の自由、農民の封建的隸屬からの解放等々の近代民主主義政治を確立することが、當面の革命の基本課題である。しかして民主主義は單に資本主義社會の政治原則たるに止まるものでなく、社會主義社會もまた人間法則としての民主主義によつて基礎づけらねばならぬ。個人的自覺なしの、民主主義なしの社會主義は、新しい全體主義に陥らざるを得ぬ。

社會主義は理論上、資本主義が爛熟した後に現れるものだと思はれてゐる。しかし悲惨な貧乏國になり終つた日本にはそんな贅澤な條件はない。日本はもはや戦前に見られたやうな資本主義



の上向線にないどころか、戦争によつて資本蓄積の大部分を費ひ果たし、重工業は禁止され、舊來の日本資本主義の中樞であつた財閥の解體によつて資本主義がもはや日本經濟の復興従つて日本復興の基本線でなくなる結果を生んでゐる。日本は勤勞を通じて立ち上る外はない。萬人生産者となつて物質的、精神的生産に全力をあげることが要求される。労働者は生産一般の過程において、又、賠償完償の過程において大きな比重を國家生活に占めるに至る。労働者の要求は、八時間労働、團體交渉權、罷業の自由、失業保險、最低生活賃金等の直接的なものから更に經營參加や生産管理の要求、更に人民的基礎においてする國家管理や計畫經濟などの社會主義的要求へ高まらざるを得ない。悲惨な貧乏國になり終つたけれども、過去に相當繁榮した資本主義を有し、且つ熟練した労働者と技術者を相當過剩に有してゐる日本は、今の貧困とそれからくる精神的廢頽とを克服するために、社會主義への道を選まざるを得なくなる。

聯合軍は原綿三十四萬トンの輸入を許可してくれた。これは單に紡績業のみならず、これに關聯する産業部門を活動せしめ、ひいて生産一般の復興の誘ひ水となる。かうした事件はポツダム宣言が賠償を實物賠償とすると規定してゐる立て前から今後も各産業に起つてくることである。

それらは今見る如き産業の無政府的萎靡状態を打破し一定の經濟的均衡を回復するに役立つであらう。しかしそれはいはば小均衡であつて、それらのものに氣をとられすぎれば、折角の民主革命の中途挫折を生じないものでもない。民主革命の徹底のためにもつと經濟的混亂が重なつた方がよいなどといふのではない。ただ私は經濟の復興があくまで、人民的基礎においてなされ、それから生ずる、本質的な經濟均衡のみが、民主革命の歸着點たる政治的均衡の基礎になり得ると信ずる。

## 五

東洋社會では封建的殘存物が根深い。東洋の退歩性の主要原因がそこにある。封建的殘存物を打破する民主主義革命を徹底し社會主義へ發展することは東洋社會特に日支鮮三國に共通の課題である。この課題解決の過程において三國の民衆の間に、特にその革命政黨の間に協力が行はれるであらう。世界史の均衡的發展を妨げてゐるのは東洋の退歩性に外ならから、これを打破する東洋革命の一環としての日本革命はその點でも既に世界史的意義をもち得る。

しかし日本革命の世界史的意義はそのやうな點にとどまるのでない。

さきに私は今世紀における世界史的意義ある革命の第一はロシア革命、第二は支那革命であるといつた。ロシア革命は腐敗墮落したツァーリズムを打破し、経済の後進國であつたに拘らず世界最初の社會主義國家を創造し、經濟體制において社會主義を實行したのみならず、政治上にはソヴェート制度といふ新國家體制を創造して世界に範を示し、第二次世界大戰に勝ち抜き、今は世界政治をアメリカと共に支配する強大國家となつた。技術的水準においてはまだアメリカに及ばないがその距離はそんなに大きくない。ロシア革命はロシア的性格が濃厚であるが、革命によつて民族がいかに若返り得るかを示したものであるし、又世界に魁けて社會主義國家の典型を作り出したことによつて世界史的意義をもつのである。支那革命は一の連續的革命だといつてよい。一九一一年の辛亥革命によつて、これも腐朽廢頹の極にあつた清朝支配を斃したが、封建勢力を代表する諸軍閥の反動革命が相次いで起り、列強の支那半植民地化政策は止まず、内亂頻發する苦痛の中に、蔣介石の指導する國民黨、毛澤東の指導する共產黨が民族主義の旗を掲げて、絶望のなかに暮してゐた支那民衆を内なる民主主義革命、外に向つての反帝國主義闘争に呼びこ

まし、つひに日本帝國主義の打倒を通じて統一獨立國家の獲得に成功しつつある。支那革命はアジアの被壓迫民族といへどもその自主的革命闘争を通じて半植民地の地位を脱し内部の社會的退歩性を克服し國家的獨立を獲得するに至るといふ貴重な教訓を示した點において世界的意義がある。

## 六

日本革命はいかなる世界史的意義をもつものであらうか。それは武裝なきも高い精神性を有する平和國家を作り出し、未來の世界戦争を防禦し、世界平和の積極的促進者となることにある。歴史を物質的のみ理解する人には一見夢を語る如くに考へられるであらうが、世界歴史はもはやかかる國家の創造を可能ならしむるやうな段階に來てゐる、人類は本能的に平和を希望し、共働と連帯を社會の本質としてをり、平和に對する憧憬が常に深いのであるが、それに拘はらず、歴史上血なまぐさい戦争が絶えたことがなく、第一次世界大戰で非常な慘禍をなめてから二十年

ならずしてまた第二次世界大戦に突入した。原子爆弾の發明があつた以上、次の戦争が如何に恐るべきものになるかは何人も想像し得る。しかし近代の戦争は諸民族の間における経済的政治的發展の不均衡の激烈化に原因するもので、均衡回復の暴力手段として戦争が殆ど必然に發生する。桑港憲章にもとづく國際平和機構は一定程度において之を抑制し得るであらうが、もつと望ましいことは諸民族の發展を均等化する如き世界經濟制度——それは社會主義の外にない——を創定することにある。然しそれは今直ぐに行はれない。今すぐに行はれ得て而も徹底的に平和を實現し得る方法は各國が一樣に武器を捨てることにある。武器を保持する者は戦争の衝動を感じ、一層武器を精銳にせんとする衝動や、更に武器を使用しようとする衝動に驅られる。日本は聯合軍によつて武装を禁ぜられてゐるのであるが、日本自らの内面的意志として男らしく武器を斷念し、丸腰素裸となり、平和國家の理念に立ち、道德を琢き、戦争否定を眞向よりかざし、強國に向つて君等も武器を捨てよと要求し、人類の長い間の夢であつた世界平和を實現する努力をなすべきだ。武器を捨てた平和國家がいかに道德的香りに充ち、物質的に繁榮し、人間がいかに生産の喜びと楽しさに充つるものであるかを、日本は身を以て示すやうにありたい。

それは少からざる難關に逢着するであらう。平和國家創建のためには戦争に必要であつた勇氣以上の勇氣が求められるであらう。然し明治維新以來の短時日の間に蠻勇的な軍國主義を作り出したと同じ民族エネルギーが、平和國家の典型を世界に魁けて作り出し得ないと誰が斷言し得ようか。日本革命が世界史的意義を勝ち得、日本が十分の權利を以て世界の一員に復歸し得るのは世界史が日本に與へたこの偉大な義務を完遂し得るや否やにかかつてゐる。

## 七

民主的統一戦線問題について一言する。

當面の民主主義革命を遂行するに必要な實際原則が三つある。第一は單に上からの運動だけでなく、都市、農村、工場の下からの民主化運動が人民委員會や諸種の組合等の人民組織の形態を通じて起らねばならぬこと、第二は全運動を指導し得る國民的前衛の黨が、成立せねばならぬことである。

わが民主革命は先づ政治、經濟、社會の各方面に根を張つてゐる封建的勢力をできるだけ完全

に刈りとつてしまふことを任務とする。このため、政黨たると大衆組織たると個人たるとを問はず、それらが統一戦線を張つて舊勢力と戦ふことを必要とする。各黨各組織各個人は日本の全體的改革についてそれぞれ固有の綱領的意見をもつであらうし又もつことが必要であつて、それらがすべて自己の特色を没却して一黨派的に統一されることを要しない。基本綱領については批判の自由を有し合うて大いに論争するがよい。しかし民主主義徹底の一般の問題に關しては、廣い心を以て一定の妥協點を發見し一致して共同の敵を驅逐するに努むるのが眞面目な諸黨派の義務である。政治は常にある程度の妥協を必要とする。むしろ政治は各黨派が棒を呑んだやうにいつも闘ひ合ふことから成立せずして、各黨派が一時的に固有の政治要求を一定程度引下げて妥協してゆくことから成立する。各黨派がその基本綱領を國民に訴ふる機會はむしろこの妥協過程においてある。統一戦線問題についてはかやうな政治的妥協の態度が各黨派になければならぬ。

もちろん各黨派がその基本綱領について、批判の自由を有して争ふのは絶対に必要だ。それになければ各黨存在の意義がない。支那の例でみれば、同國の二大政黨たる國民黨及び共產黨は基本綱領において根本的差違があり、常に激しい論争を続けしば、實際衝突をすら惹き起してゐる。

るのは周知の如くだが、抗日においては統一戦線の態度を徹底的にとつてきたし、また同國今後

の民主的建設の課題については現に兩黨とも固有の政治的要求を一定程度引下げ妥協を通じて共通の目標の實現に近附かうとする態度に出でゐる。わが國の各黨派の基本綱領は天皇制の問題について最も大きい意見の差違がある。この問題は各黨大に論争すべきもので、この問題についての意見一致を前提として統一戦線を結べといふのは、事實上統一戦線を不可能にする無理な注文である。この問題については後記のごとく人民権力の確立といふ一般的要求で折り合へばいい。

## 八

民主的統一戦線は單に封建勢力の打破だけが問題なのでなく、戦後の國民生活の再建といふ建設的目的に立つ運動であることを要する。塗炭の苦しみのなかにある人民大衆の最も待ち望むものは、目前の生活危機を快速に解決してくれる政治機構とその具體政策である。フランスのトレーズが同國の人民戦線の統一に成功したのも、半戦敗國たるフランス人民の窮狀打開を最高目標に掲げたからであつた。今日の歐洲諸國の統一戦線が多少とも永續性を示してゐるのは國民的動

機を捉へ、戦後の建設問題を取り上げるからである。日本は今、國際間の除け者になり、國家的獨立のない半植民地的地位に顛落しかけてゐるが、これは國民として忍び難いことである。人民革命は國家的獨立回復の要望と深い關聯に立つてゐる。人民の生活窮乏の打破、生産の復興による國家の再建、一日も早く國家的獨立を回復して世界の一員に復歸すること、これらの建設的目標は民主的統一戦線の積極的内容であることを要する。

## 九

當面の民主的統一戦線は、第一、人民權力の確立、第二、食糧その他の生活危機の突破並に生産再興、第三、聯合民主内閣の即時結成、の三大目標に大まかな一致點を見出し、それを中心としてあらゆる民主主義勢力を結合すればいい。

革命の根本問題は權力にある。古い封建勢力を代表する權力に代つて人民を代表する新權力を成立させることが民主主義革命の基本任務である。人民權力の具體的形態が改革せられた天皇制であるべきかまたは共和政治制であるべきかについては各黨それ／＼基本的な主張をもつてあら

う。その何れか一つに決定した上で統一戦線を結ぶといふことは事實上にも論理的にも不可能である。權力の主體を人民に置くといふ一般的目标において一致すれば統一戦線は成り立つのである。この一致はどうしても必要である。それだけでなく民主革命の意味がなくなる。勤勞者の諸黨派が進歩黨や自由黨にまで統一戦線を持ちかけることは間違つてゐる。進歩黨や自由黨は大ブルジョアや反動的地主の方に階級的基礎があり、それらが民主革命の徹底的遂行を希望するわけがない。それらの黨の左翼分子の参加は認めてもよいであらう。

生活危機の突破や生産の再興は卑近のやうに見えても實は民主主義政治の發展を媒介する重要な政治的契機であるから統一戦線の成立及び促進に缺くことのできぬ目標である。

議會が權力主體となることは民主政治の定石である。わが國の議會は今までかやうな機能を十分もつたことがなく、特に戦時中には東條軍閥に買収された推薦議員團が露骨な御用を勤め、議會全體として帝國主義戦争政策の推進機關となつてゐたことは周知の如くである。來るべき新議會は開會と共に幣原内閣の不信任案を提出して辭職せしめ、政黨内閣がそれに代つて登場せねばならぬ。その際、多數黨内閣をとつてならないと思ふ。多數黨内閣は平常の場合の民主主義の定

石ではあるが、今日のやうな國家危急の場合には何よりも日本のエネルギーを代表し得るやうな各黨の優秀人物を網羅した有能政府が必要である。各黨派の勢力に應じて按分的に代表者を出しそれで聯合内閣を作ることが何より望ましい。社會黨は獨自の一黨的な社會黨内閣を作るといふ考へに立つといふが、その自信は壯なりとするも、國家當面の大勢や國民の要望やまた自黨の實力をかへりみて、聯合内閣主義の方に考へ直してもらひたい。今後現れてくる深淵のやうな社會的危機や半植民地化の危機を克服するためにはあらゆる民主主義勢力のなから最優秀分子を擇びそれを結合した政府を作るべきで、社會黨の實力を過少評價するわけではないが、自黨だけでは不足であらう。

## 十

社會黨共產黨をいはば兩大關とする統一戦線運動は、成るべくして容易に成らず、殊にこの運動のため絶好かつ必要の機會である總選挙戦に際し協定や共同闘争のできないのは残念なことである。やはりこの問題は中央部の政治家の間の意向からだけでなく、下からの力を基礎にしなけ

れば具體化し得るものでないことが感ぜられる。この下からの力は既に動いてをり、労働組合相互間、農民組合相互間、また食糧管理の問題などについて各地に共同闘争が行はれ、事實の統一戦線が大衆自身の手が始まつてゐる。労働者と農民との階級同盟を意味するやうな共同闘争もはじまつてゐる。この傾向は意識的に大いに推進されねばならない。むしろ上からだけの統一戦線は望ましくないとはいへる。下からの運動に基礎づけられてこそ本物の統一戦線ができる。上部にある政治家はこの大衆の自然發生的な動きに對して敏感であり忠實であらねばならぬと思ふ。

一月四日の聯合軍の追放令及び二月九日の政府の立候補禁止範圍の公表によつて舊政治勢力は潰滅的打撃を政治的活動の部面で受けたが、それらの勢力に屬する個々の人間は死んでしまつたのでなくピチ／＼生きてをり、かれらが社會の各方面に散らばり、他日鬱憤を晴らす機會をねらふため、今度は政治の部面でなく、もつと大衆に密接した部面で力を養ふに努めるであらうことが想像される。かれら反動勢力の間にこそ統一戦線ができるかもしれない。従来いはゆる右翼なるものは小黨分立し封建社會の小領主のごとく小城を守つて割據する風があつたのである。反動陣營に統一戦線が成立し民主陣營にそれが成立しないといふことであつては困るのである。

古い大正時代の人民戦線主義や、現歐洲小國のソ聯勢力下の諸共産黨の議會主義戦術やらを今の日本にそのまま持ち込むやうなことでは、到底筋金のはいつた統一戦線はできさうにない。終戦後の新しい現實そのものから學び創意ある戦術が編出されねば、思想的第二敗戦ともいふべき危機が来る。現在の實際運動の指導に當つてゐる諸君が禪を締め直すことを要望する。さうでない時勢が諸君を押し流してしまふ。

## 國民的動機と統一民主戦線

### 一

大戦争と革命とは形影相伴ふもので、第一次世界大戦の末期にロシア革命がおこり終戦後にはドイツ革命がおこつた。勝つた國といへども社會構造上に多くの變化をする。つまり敗戦國には急激な革命、戦勝國には緩慢なる革命が行はれる。

トロツキイに「戦争と革命」といふ面白い本のあつたことを思ひ出す。第一次大戦における帝政ロシア軍の敗北、刻々崩壊する舊權力、經濟的アナキーと民衆の窮乏の激化、兵隊の脱走、諸都市の労働者の叛亂、續々成立する労兵農ソヴェート、その渦中におけるレーニン指導下のボリシェヴィキの縦横の活動等々が、かれ特有の現實味ある生々しい描寫力で書かれてあつた。私がお頃この本のことを思ひ出したのは、戦争と革命との不可分關係が他人事でなく、まさしく我が身の上、日本自身のこととなつたからだ。

日本は惨憺たる敗北を喫し、軍閥と財閥を中心として天皇を頭部にかざした舊権力は崩れ落ち、食糧不足とインフレの生活不安が人民に蔽ひかぶさつてをり、精神生活は大混亂に陥り國家的獨立はどしどし失はれてゐる。政治、經濟、社會、精神を支配した舊原則はもう無力化した。民主主義人民革命を遂行する外は日本再生の道はなくなつてゐる。然るに日本にはロシア革命におけるボリシエヴィキ黨のやうな強い指導力ある點は無く、ドイツ革命における社會民主黨のやうな、改良的ではあるが組織力ある黨すらなかつた。全國民を指導して今日の社會的國家的危機を突破し得る黨がまだない。幸ひに聯合軍権力がポツダム宣言に従つて言論の自由其他民主主義の大枠を定めてくれ、舊指導者の公職追放など、日本人にまかせておけば何年たつてもできさうもない荒療治を次々にやつてくれてゐる。しかしその内容を充實させるのは日本人自身の創意的活動の外にない。

その創意的活動はすでに緩慢ながら現れ出してゐる。それは政府やブルジョアや學者の層から起らなくて、労働者、農民、都市小市民、學生などの労働者層の間に組織運動、生活擁護運動、生産管理運動、爭議供出人民管理、戦災者同盟運動その他の形態で現はれ出してゐる。これは我

國の民主主義革命の主體勢力が勤勞國民大衆であること、竝に民主的新權力の源泉が議會よりも廣汎な大衆に直接的に根ざした人民組織、人民運動であり得ることを示唆するものである。反動勢力は人民の手で叩き潰されたのでなく、聯合軍の上からの手で屈服せしめられたのであるから、かれらの息の根をほんとうにとめてしまつてゐるものでない。かれらは廣く社會に散らばり、大衆の間にその力を植えることを企て、他日、新しいファシズムの形で復活する危険なしとしない。かやうな危険を前以て防いで民主主義革命を徹底する道は三つある。第一に眞に指導力ある全國的革命政黨の成立、第二は廣汎なる人民運動を伸ばせるだけ伸ばすこと、第三は民主主義諸勢力を聯結する統一戦線の樹立である。

## 二

民主的統一戦線の必要は口の酸くなるほど叫ばれてゐる。進歩黨や自由黨まで統一戦線に組み入れようとする考へは馬鹿げてゐる。金融資本や地主や舊官僚勢力などのまさり合つてゐる、これらの黨は民主的諸勢力にとつてむしろ敵手たるべきものである。民主的統一戦線の必要は野坂



君が歸國して力説し山川さんまで出馬して提唱し新聞は賑はしく其記事を掲げてゐるのだが一向  
捗捗しい足どりを示してゐないのは危険なことである。その理由を検討しておくことは民主革命  
一般のために必要だ。

率直にいへば、民主的統一戦線の諸提唱者は、終戦後にガラリと變つてしまつた日本の新しい  
現實そのものに立脚して戦術を汲み出す努力が足りないため、各黨をも満足させ大衆を十分納得  
させ行爲に働きやる力をもたぬのである。大正時代の人民戦線の觀念は古くなつてもう役に立た  
ぬ。歐洲諸共産黨の議會を中心とする對社會黨の統一戦線術はそのまゝそつくり今の日本に輸入  
できる代物でない。歐洲の諸共産黨は大體ソ聯の意志のまゝに動く他力依存主義で、ソ聯は今歐  
洲では議會主義戦術をそれらの黨にとらせてゐる。今の歐洲では大した革命の氣運がない。日本  
は封建勢力を中心とする舊權力に代つて人民大衆自身の新權力を成立せしむる大きな革命を経験  
せねばならぬ運命にある。議會主義だけでは解決しきれない。世界の共産黨のうち革命政黨の名  
に値するものはソ聯と中國共産黨だけだ。野坂君は歐洲諸共産黨の戦術よりも、むしろ支那で偉  
大な成功を収めた中共と國民黨との統一戦線から學んで、日本眼前の現實に適切な統一戦線を創

意すべきであつた。

## 三

創意の缺乏の最も大きい點は國民的動機を十分にとりあげて之を民主的統一戦線の基調とする  
努力の足りないことにある。今日ほど階級的動機と國民的動機とを正しく調和することの必要な  
時代はない。階級一點張りの運動がいかにかたく、乾からびた陰慘味を帯びるかは既に試験済み  
である。生産者大衆は階級人であり、階級意識乃至心理をもち、階級的利益をその日常生活や政  
治生活に主張するけれども、同時にかれらは國民であり、國家の獨立、國民的利益の確保、非愛  
國的な黨や人物を憎惡する心理などを有する。たとへば労働者は今日も多くの収入を得て贅澤な  
生活をする重役資本家に對して階級的反感を有するが、それは同時に今日人民が悲慘な窮乏のな  
かにあるのに金に任せて贅澤するのは非愛國だといふ國民的憎惡を必然に伴ふ。

今日、國民的動機として最も強くとりあげられねばならぬものは何か。それは第一に生産の復  
興、第二に國家的獨立の回復である。生産の復興なくして日本の再興はあり得ない。生産の復興

は先づ國民を飢餓といふ直接的生命の危険から救ひ出し、更に勤勞を欲してゐる大衆に職を興へ、賠償取立による生産力の一層の瓦解を未前に防ぎ經濟的均衡の一定の回復によつて政治的改革をスムーズにすることができる。生産が社會生活の基礎であることが今日ほど生々しく現れてゐる時代はない。萬人生産にいそしんで日本再興の基礎を作り出すのは今である。更に國家的獨立の問題は、敗戦國となり、戦争の責任を負はねばならぬ日本にとつて聲を大にして叫ぶことは何となしに遠慮すべきことのやうに思ふ人があるかもしれない。けれどポツダム宣言にも聯合國は日本國民を奴隸化することを目的とするものでないと言明してゐる。我々は一日も早く賠償を完遂しポツダム宣言の諸内容を履行したいものである。國家的獨立は基本的人權の確立といふ民主主義の第一原則にとつて必要缺くべからざることである。奴隸に獨立人格のかがやきなどはあり得ない。我々の國民的希求の最大なるものとして國家的獨立といふことを擧げるに躊躇すべきであらうか。散々非愛國的態度をとつた人間が急に愛國など言ひ出しても全面的信用を與ふことができぬ。

國民的動機の一つの問題としてとりあぐべきものに天皇制問題がある。大正昭和の天皇が軍國的階級的天皇で軍國主義者の道具化してゐたことは明白な事實で、現天皇は戦争について少くとも道德的責任を有してをり、その故に速かに退位せらるべきものであると考へるが、天皇制そのものについて國民は深い支持感情を有してをり、それには國民的日本の國家的獨立や國民的團結を欲する感情が結びつてゐる。國民的團結は軍國主義の温床となるとは限つてゐない。却つて平和國家の創建の條件となり得る。この國民的感情を暴虐に蹂躪する態度は決して國民の共感を得ることはできない。ソ聯がルーマニヤ其他の同國影響下の國々の君主制に一指もふれず、ひたすら土地改革其他による民主主義の徹底につとめてゐる事實を何と見るであらうか。

もう一つ重要な國際的出來事を記す。本年はじめに印度においてチャンドラ・ボースの軍參謀長の裁判が行はれたが、これに對してガンデー其他の國民會議派が一大示威を起した。國民會議派の人々は、そのとき、飢餓と窮乏のどん底にある日本人民を救へ、とも叫んださうである。この裁判に參考人として呼び出された日本人は、歸國してみても、日本の現状に悲哀を感じてゐるさうである。日本よりも一層悲惨なドイツにおいても人民の一部に、指導者ゲーリングを返せ、といふ聲があがつてゐると傳へられる。日本では戦争犯罪人として引張られてゐる連中にはそんな

國民的要求に値する人は殆どあるまい。久しく暴政を振つて日本國民に今日の大不幸を與へた東條及び其一味の責任は徹底的に糾明さるべきである。しかし日本人自身が戦争犯罪人があそこにもある、ここにも居る、と摘發し合ひ、告訴癖、讒訴癖、密告癖を發揮してゐるのは、右のインフ人、ドイツ人に比べて恥しくないか。あるアメリカ人は他國民の間では戦争犯罪人をなるべく少くしようとしてゐるのに、日本人はなるべく多くしようとしてゐるのは不思議な國民だ、と暗に低劣の國民よといふ嘲りの意味をこめて語つたさうである。

戦争の責任は飽くまで追及せねばならぬ。しかし、戦時中に外國の安全地帯にゐたり、戦線を脱走したり、國內で懷手をしてゐた連中にはそれを裁く権利はない、國民の大多數は激しい空襲の下に食ふものも食はず、なけなしの金は戦時貯金その他に献納し、東條其他の軍閥の悪政を知りその政府に嫌悪と不信をもちつつも、政府を變へることは自分の力に及ばずと諦め、ただ敗けたくないといふ一心から、戦場や工場で身を粉にして働き抜いたのだ。かやうにして戦争中を暮らした人々を戦争協力者といふ變な言葉で片付けてしまふことはできない。この人々こそ眞の戦争犯罪人——戦争を挑發した軍閥、戦時を利用して不義の富を積んだ資本家、大土地所有者等——

を裁判する権利がある。

## 四

國民的動機といふことは、國家自身に關したことばかりではない。身近かな食糧問題、インフレ問題、失業問題などのなかにそれが存する。これらの問題は單に各個人の生活に關するばかりでなく、これが解決されなければ社會全體の秩序が崩壊する全般的意義をもつ。我々は食糧不足で最も困つてゐるが、更に最近では荒れ馬のやうな物價の狂騰が人民の生活を破滅させようとしてゐる。しかも之に對して、政府は殆ど何等思ひ切つた手を打たぬ。

政府にはもう其力がないのだ。この状態に對して勤勞者の諸黨派はなぜ小異を捨て大同して統一戦線の下に其實際的解決に乗り出さないのであるか。最も生活窮乏に悩む者は國家にとつて最

も大切な要素である勤勞者の層——労働者、農民、都市小市民、頭腦労働者、學生等の肉體的精神的勤勞に従事する人々——である。日本の再興はこの人々の手に待つほかはない。この人々を餓ゑさせてならない。

この人々の生活窮乏を打破するのは單に階級的意義あるのみならず、大きな國民的意義がある。階級的なものと國民的なものを見事に調和する契機がここにある。直接的な生活窮乏の打開は高度の政治變革を導き出す導火線である。

なほ民主的統一戦線の容易に成立しない原因として、各黨派の繩張り主義や、他黨のスキをねらつて自黨を擴張しようとする不誠實や、大衆間の下からの統一衝動を基礎とせずして中央の政治家の間だけの取引で決めようとする事等、古い封建的でもある、過去の運動の遺物が禍してゐることをあげ得る。終戦後の新しい現實のなかから生きた力を汲み出し、明るい、溫い、強い同胞愛で、民主主義の基本目標がけて進んでもらひたいのである。

戦争中に苦しみ抜いた人々、現在生活窮乏に悩み抜きながら肉體的精神的労働に従事してゐる人々、これこそ日本再興の最も大切な要素であり、そこに貫いてゐる國民的動機を洞察し、尊敬

し、その心にピッタリするものを與へ得るところの民主的統一戦線のみが成功する。

## 民主的統一戦線の具體面

## 日本革命

革命は靈藥だ。腐朽墮落した社會は革命によつて若返り、之に因つてその民族は人類の飛躍的進歩に貢献する。

今世紀における世界史的意義ある革命の第一は社會主義を建設したロシア革命であつた。第二はまだ既に進行しつつある支那革命である。第三は敗戦によつて奇しくも我々に課せられた日本革命だ。敗戦はこれまでの日本歴史を一應ぶちこはした。しかし、民族の生命が絶たれたのではない。今日の大苦痛、大不幸を契機として日本民族の生命が新しくよみ返らうとする。日本革命の基本動向は民主々義の徹底を通じて内容的に社會主義に到達するにある。この日本革命のもつ世界史的意義は何であるか。それは武裝なきも高い精神性をもつ平和國家の典型を世界に魁けて作り出すにある。日本人自ら日本革命の高い意義を強く意識せねばならぬ。

## 民主々義革命における三つの實踐鐵則

民主々義は第一目標、社會主義は第二目標である。當面の任務は民主々義の徹底にある。今日の民主々義革命の主導力は労働者階級を中心としひろく精神的物質的勤勞する人民大衆だ。ブルジョアはその進歩分子といへども高々改良主義にとどまる。古ぼけながらなほ隱然たる底力をもつ封建勢力に對する全面的闘争が、行はれねばならぬ。それと必然に財閥的大ブルジョアに對する闘争を伴ふ。あらゆる民主々義勢力が糾合されねばならぬ。此闘争に三つの鐵則がいる。

第一は下からの民主々義の運動だ。一月四日の追放令は舊指導者を秋風の前の枯葉の如く散亂させたが社會の下部構造では封建的根源がなほ深い。基礎的な社會共同體たる村を見よ。村長が進歩黨員だつたり農業會役員が供出の上前をはねたり村會が地主の番兵だつたりすることはまだソツクリ残つてゐる。都會でも町會隣組は依然封建的だ。議會選舉も非常に大きい意義があるが下からの人民組織たる人民委員會をどしどし展開して下からの民主々義の嵐を起さねば國全體の民主化は出来ることでない。

第二は全國的な革命政黨の樹立だ。社會黨共產黨もそれを目指してゐるのであらうが遺憾ながらまだそれに達してゐない。

第三はここでいふ民主的統一戦線の即時結成だ。

### 統一戦線は國民的且つ建設的たるべし

我國では封建的殘存物の強いことを反映して、封建勢力と戦ふ進歩的政黨の内部においてすら封建的派閥主義や封建的ボスのできる悲喜劇がある。人民大衆は決してそのやうなものを欲してゐない。各黨派は基本綱領においては批判的自由を有し合ふて互に論争するがよい。然し民主主義の敵に對する限り、ひろい心で一日も早く統一戦線をとり結ぶべきだ。そして統一戦線は單に封建勢力に對抗するといふ消極的な面にとどまるべきでない。

戦前のフランスのブルム指導下の左翼的統一戦線は反ファシズムを中心として形だけは整然たる成功を収めたが労働者が生産を大に怠けた故にヒットラーの侵入に逢ふや一たまりもなく國自身崩解した。之に反し戦後のトレーズ指導下の統一戦線は戦後國民生活の復興といふ契機をと

らへ之を中心とした故に大に成功を博しフランス人民の支持を得たのは周知の如くで、今日の歐洲諸國の人民統一戦線が多少とも永續性を示してゐるのは國民的觀點を強く把握するからだ。我國民は敗戦のどん底にあつて生活に喘いでゐる。生産の復興なくして日本の再興は覺束ない。我國の統一戦線は封建勢力の驅除と共に國家的獨立の回復、生産の下からの復興等の國民的で建設的な目的を伴はなければ決して人民自身のものとなり得ない。

### 下からの統一戦線

社會黨と共產黨との中央部政治家が互に共同戦線を張るの張らぬのとゴツタ返してゐるのを尻目にかけて地方の下部の諸組織ではドシ／＼事實上の統一戦線を敢行してゐる。勤勞人民はさうせざるを得ないほど生活の窮乏を身に沁みて味はされてをり、それだけ正しい政治的本能で動いてゐる。この動向は意識的に大いに促進されねばならぬ。

### 母體を作れ

私の尊敬する社會主義の先輩山川均氏は統一戦線の提唱をせられた。我々は萬幅の敬意と同意を捧げる。問題はその具體的内容である。まづ何よりも民主主義統一戦線の母體となるべき協會の成立が望ましい。而して協議會に招待さるべき團體や人物の範圍や性質によつて統一戦線の成否が定まると言つてよい。私はできる限り廣汎な網羅方法を希望する。社會黨、共產黨、日本民黨、協同黨、獨立社會黨などの諸黨派、地方及び都市で群立しつつある黨派中で民主主義的傾向の確實なもの、左翼的藝術家團體、思想團體、技術家、教育家、新聞従業員組合、労働組合、農民組合、並に無黨派の民主主義思想家學者を廣く含むべきだ。手工業的でなく大工業的規模でなければならぬ。

## 基本スローガン

民主的統一戦線の基本スローガンとして第一、人民主權の確立、第二、食糧其他の生活危機突破並に生産復興、第三、革命的聯立民主内閣の即時結成の三でよいと信ずる。この三目標で大まかに共同することが何より必要だ。レーニンは一九一七年三月革命以後に自派のポリシエヴィキ

派をして進んでメンシエヴィキ派と統一戦線を張らせたが「批判の自由」を確保するを常に宣言し且つ實行した。基本綱領について各黨派が批判の自由を有して争ふことは絶対必要だ。（それでなければ各黨派存在の意義がない。）人民主權の形式についても共和制か天皇制かの議論が大に有り得るがこの問題こそ各黨派の基本綱領であるから、ただ人民主權といふ點で一致すればよい。天皇制廢止を中心として統一戦線を張れといふのは事實上統一戦線を不可能にする結果となる。又、現在の病人のやうな内閣に何事も期待できない。（この病人内閣が「強權」を以て供出促進をやるといふのは身の程知らずである。）私は今の段階において多數黨内閣主義などに全然反對する。全民主主義勢力を結成した聯合内閣だけがやや危機を救ふに間に合ふ。（社會主義段階においては全國的革命政黨が政權を把握しなければならぬ）

## 延安歸來者に告ぐ

或る市民曰く脱走兵が民主主義の戰士に祭り上げられるのは是か非かと。かつて第一次世界大

戦後にイタリアで戦線脱走者が代議士になつてゐたが後に民衆が議會から暴力的に叩き出したことがあるさうだ。日本軍隊の腐敗がその極に達してゐたのだから脱走兵を必ずしも責める氣になれぬ。然し延安で訓練されたこれらの諸君は、祖國に一步を印して先づ見る都市の荒涼たる焼け跡、餓え疲れた同胞の顔を何と見るか。先づその偽らざる感じをききたい。私は始終中共に好意をもちつづけたが、中共が今日深く人民の心を擱んでゐる重大原因の一つは支那民衆のやるせない民族獨立の要求を黨自身の心としたことであることを、諸君自身目撃し痛感したのであらう。私は諸君が民主主義の戰士などと高ぶらないことを信ずる。諸君は黨派心に捕はれず、階級至上主義に捕はれず、今はじめてみる祖國人民と痛苦を分ち合ひつつ民主主義統一戦線の形成のために努力せられるがよい。

## マルクス主義を超えて

### 一

終戦後になつてからマルクス、エンゲルス、レーニンの著書論文の翻譯がたくさん出る。勉強のための文献が豊富になるのは結構なことだ。しかしこれを丸暗記して公式的にふりまはしたりすることはかへつて有害である。マルクスやエンゲルスの生きてゐた資本主義發展期のヨーロッパや、レーニンのたたかつた狂暴なツァーリズムの舊ロシアと今日の日本とは環境的に大きな差違がある。世界の經濟及び政治についてもマルクス、エンゲルス、レーニンの豫想しなかつた新現實がある。われ／＼は敗戦窮乏の日本をいかに建て直すかといふ具體的任務を課せられてゐる。日本の再建はけつきよく社會主義による外はない。われ／＼は必死の道として社會主義を求める。だから現實離れした觀念や公式をふりまはし、マルクス主義の文字の奴隸になることはこの際、絶対禁物である。思想の捕虜とならずに、思想を武器とすること、この態度が根本的に要



求せられる。思想をもつことは日和見主義の誤謬に陥らないためにどうしても必要であるが、思想は運動の主人ではなく武器に外ならない。

社会主義にはいくたの流派があるが、マルクス主義が最も徹底した理論體系を有することは事實である。それかといつて社会主義の他の流派を一概に否定してはならない。たとへば現在の英國労働黨政府の銀行、炭鑛、鐵鋼業の國有政策などには英國的な社会主義のありかたが現れてをり、それはヨーロッパ大陸の政治に影響を興へてゐる。民族目的でありつつ、それ自身に世界性をもつことが大切なのである。われわれ日本人はマルクス主義の學說からも學び、他の流派の社会主義からも學ぶとともに、日本の民族的特殊性や傳統や能力や環境からかんがへ、日本に最もピッタリする社会主義體系を考へ出せばよいのであるし、又さうでなければならぬ、さういふ態度こそ世界に貢献する。

われわれ日本人は思想的能力が少くて、したがつて大きな思想に接するとその盲目的な信者になりやすい。信者になるのは感情的なゆき道で、直観だけでなく理知のはたらきを必要とする思想にとつて信者化は逸脱である。信者になると、思想を驅使するのでなく思想から驅使されるやうになる。私は恥しいことにはそんなあやまちをたくさんやつてきたので、その弊害をひどく感じてゐる。

學問においても國際的獨立主義はもちろんいけない。世界史には一本の大きな進歩の流れがある。この流れは各民族の創意的活動の總合から生れるのであるがそれは世界史の進歩の流れからはづれるものであつてはならない。世界史は封建主義から資本主義へと動いたが、さらに資本主義から社会主義へ移ることは動かすべからざる發展順序である。われわれは日本に最も適切な社会主義を創造せねばならぬが、世界におけるもろくの社会主義の流派、殊にそのもつともすぐれた思想體系たるマルクス主義から多くを學ぶ必要がある。但しもちろん自主的にである。

## 二

マルクス主義はひとを公式主義にみちびく危険をかなりはらんでゐる。あまりに巍然たる理論體系である故にレーニンのやうな卓越した獨創性をもつた政治家でないかぎり、その公式の奴隷となりやすい。

マルクスは資本主義社會を分析してそれを支配する法則の發見に精力を集中した。法則は一般性と平均化とかいふ屬性をもつ。しかるに時間のなかに發展する個々の現實はきはめて獨創的なもので一般法則の手にをへないことが多い。學問が精緻なればなるほど、法則化が強くなるから、個々の現實からはなれ易い。一般法則で頭を抑へつけられずそれを利して個々の現實のなかにおける新法則を發見し、實行を通じて現實そのものの新しい運動を策しうる人がほんとうに世の中に役立つ人である。

共産黨宣言を讀むと一切の歴史は階級闘争の歴史だといふ法則を立ててゐる。そして資本主義社會の基本的な階級對立をブルジョア及びプロレタリアートに單純化し、他の諸階級は二者いづれかの附加物となつてゐる。一見すこぶる鮮明である。この法則は歴史上における階級の意義の重要性及び階級闘争の歴史的役割を示すに役立つ。しかし實際の歴史はこんな法則の下ではかり動いたのでない。階級には搾取被搾取の機能が強かつたと共に社會的總勞働の配分形態たる意味もあつた。歴史の進歩は階級闘争ばかりでなく、権力と勞働との調和的發展とか精神的原因とかその他種々の社會的條件の複合から成立したのであつて、一切を階級闘争に歸するのは餘り

に單純すぎる。資本主義社會ではブルジョア及びプロレタリアートの二大階級のほかに農民だとか小ブルジョアとかはなほ獨自の意味をもつてをり、共産黨宣言のやうに二大階級のみ他のもはすべて没落してしまつたといふのは事實に反してゐる。社會における基本的事實を法則化して強く力説するのはよろしい。しかしそれだけで歴史が動くといふやうな考へのため方はあやまりだ。現在の日本においても勞働者階級が最も進歩的であるのは事實である。しかし中小工業者や技術者の層も大切な要素である。

資本論はマルクスの生涯の精力の結晶でブルジョア社會の基本物を精緻に分析してあるが、そこでも法則化が強すぎて抽象的になりすぎるものが少くない。その一つの例をあげてみると、蓄積即ち勞働者から搾取した剩餘價值を新資本に轉化する過程が進行するにつれて資本の有機的構成が高級化し、不變資本部分の割合が大きくなるに反し、剩餘價值を生み出す可變資本部分が減少しこれに由つて利潤率が低下しこれが資本主義の否定をみちびき出すといふ。この法則は一般的に正しいけれども、具體的な現實世界では資本はなんらかの新投資範圍を發見したりして利潤率が零に近づく兆候はみえてゐない。蓄積は無限に連續する可能ありや、また利潤率零となつて

資本主義が不可能となるかが、具体的に大きい論議の種となりうるのみならず、この利潤率遞減の法則は資本主義の自動的崩壊、従つて政治的に日和見主義的態度をとつても社會主義は可能だといふ頗る危険な態度を可能ならしめる。

また資本集中法則の理論をとつてみると、多數の資本が個別性を失つて少數の巨大資本に集中しこの集中は社會的富の絶對的增加たる蓄積の量の如何によりて制約されるものでなく且つ集中の速度は蓄積の速度よりも遙に早く、終に資本が單一の巨大資本に統一され、それが社會主義成立の條件となり、従つて資本それ自身が資本主義覆滅の條件を作り出しつつあるのだといふ。この集中學説は經濟學史上、必ずしもマルクスによつて發明されたものでなくその前驅があるのだが、マルクスによつて一層精緻な、抽象法則にされたのは事實である。しかし現實についてみると生産經營の集中は必ずしも所有の集中を意味しないことや、經營の大小を決定する條件は資本の集中よりもむしろ市場の大小に依據することや、大企業の進歩が新たな仕上作業的な中小企業を絶へず發生させてゐること等、マルクス資本集中法則が抽象的思惟であることを示すことが少からずある。恐慌によつて資本主義が必然に破滅するといふ理論のごときも、重要なモメントを

つかんだものではあるけれども、實際において社會主義革命は資本主義の完全に成熟しない國でも行はれうる。ロシヤがさうであつたし、日本もさうであらう。客觀的な條件の成熟よりも人間の意志的努力そのものの方が革命にとつて大切である。

右のやうにマルクスの理論は客觀的條件の變化に非常な比重をおく。だから亞流マルクス主義は人間意志よりも客觀事情に信頼する公式主義者だの日和見主義者だのを産出する危険をふくんでゐる。

## 三

凡そ一の學説は、それを特色づける世觀觀、歴史哲學、方法論の三者をふくんでゐる。この三者を缺いたなにかの思想は學説でなくてジャーナリズムにすぎぬ。

マルクス主義を基礎づける世界觀、歴史哲學、方法論は唯物史觀といふ言葉に要約できる。労働價值説（餘剩價值説）だとか唯物辯證法だとか階級闘争説だとかをマルクス主義の基礎思想とする人があるが、しかしマルクスの全學説の中心は唯物史觀に外ならぬ。

唯物史観は多くの価値ある貢献をしたが、これを以て政治行動や倫理生活の規範とすることはむづかしい。われ／＼は今日、祖國日本を敗戦窮乏のどん底から救ひ出す任務をもつてゐる。祖國を愛する感情からわれ／＼はさうせずにはをれない。利慾のために政治生活する者は論外として、まじめに日本を再建するために政治行動を考へる者には、義を見てせざるは勇なきなりといつたやうな倫理的感情がはたらく。唯物史観にこびりつくならば運動は乾からびてくる。だから我々はどうしてもすくなくとも世界観には唯物史観を超越する必要がある。

唯物史観の功罪を次の如くかんがへる。

唯物史観の功績として次のことをあげる。

- (1) 自然と歴史との限界を明かにし歴史における因果性を発見し歴史を統一的に且つ科學的に理解しようとした點に前人未發のものがある。歴史の法則的説明としてすぐれた地位をもつ。
- (2) 歴史における衝動力の觀點を立て之を生産力に見出してゐることも非常にすぐれた見解だ。
- (3) 歴史の發展段階の思想を明確にしたことも功績だ。
- (4) 生産力と生産關係との矛盾の辯證法を立て社會革命の周期的必然を明かにしたことも立派

だ。

(5) 社會關係の概念もマルクスの學問的功績の一つである。經濟を孤立的な事物的範疇に制限する俗流經濟學の斷然及び得ないところである。

(6) 労働する大衆の制動的役割を明かにしたことや、階級闘争の必然やその進歩性を明かにしたこともすぐれてゐる。

右に反して唯物史観の主要缺陷として次のことが數へられる。

- (1) 唯物史観は人間の創造活動にほとんど何等の積極的説明を加へ得ず、人間を人間動物にまで引下げ、歴史から目的を除き、生の躍動とか人間の目的意識とかに冷淡で無理解である。
- (2) 客觀が主觀を抑へつけてゐる。その必然論は機械的でさへある。人間はいちぢるしく受動的になつてゐる。舊秩序の自動的崩壊を待望するといふ日和見主義の生ずる危険がここにある。
- (3) 經濟を絶對の範疇とするのは無理である。他の社會的要因も事實上、歴史の發展に貢献する。エンゲルスは後になつて經濟は究極原因にすぎぬといふ説を出して原初的唯物史観を修正したが、この修正でもまだ不十分である。この經濟のみに歴史の動力をみとめる思想は、有害な唯

物主義や、政治的關心を缺いた經濟主義を發生しやすい。事實上、亞流マルクス主義者たる社會民主主義者には社會關係の一切の事項は經濟の變形物だといふやうな愚劣な思想に陥る者がある。(クノーの如きはその例)

(4) 歴史の重要な現實條件たる權力と労働との交互作用は唯物史觀では十分の説明ができない。  
(5) 社會の上下建築の理論、下部建築の變化によつて上部建築が自動的に變化するといふ理論は生ける現實を一定の型に押し込む概念的な主知的な圖式主義である。

(6) 階級闘争説は階級至上主義を容易に生み出す。國家を簡単に階級壓迫機關とみることは明かに事實に反する。國家や民族は人間の歴史の進歩についてこれまで大きな役割をしてきてゐる。實に階級至上主義は諸國の労働運動、革命運動を逆に妨げてきたといつてよい。(例へば第一次戦争後にヨーロッパの至るところに革命的風潮がみなぎつたが第三インターナショナルはどこでも一様に階級至上主義的政策を共産黨に唱へさせ正當な民族的契機を否定したために、どの國でも革命が一つとして成功しなかつた。)

(7) 唯物史觀は人性や社會心理現象について何等本質的な説明をなし得ない。個人の自律といふ

やうな基本問題もその説明の能力外にある。

(8) 偉人とか天才とかの主導性についても説明できない。

(9) 倫理なくして人間の生活は成り立ち得ないがこの點についても唯物史觀には本質的把握がない。

われ／＼は民主革命の激動時代にある。それはなほ完了が遠い。われ／＼は民主革命を徹底してさらに社會主義へ進まねばならない。犠牲、勇氣、道德、その他多くの精神的なものがいる。われ／＼は西洋の社會主義に學びつつ日本及び東洋の傳統思想からその封建的な衣を去りその永久生命を新に復活させて、これを世界觀的基礎としなければならない。マルクス主義の理論よりわれ／＼は大いに學びこれを活用しなければならぬが、その思想を無批判に鵜呑みして公式主義的にふりまはしこれを獨裁的に押しつけようとする者は、思想上の奴隸であり、日本革命の賊である。レーニンはロシアの現實のもとにマルクス主義を生かして適用してレーニン主義といふ新しい政治學的體系を立てた。支那では毛澤東がマルクス、レーニン主義の支那化といふことに努力してゐる。みなマルクス主義に捕はれない態度である。われ／＼は日本の傳統や現實を基礎と

して日本の社会主義革命を考へるべきであり、マルクス主義からとりいれるべきものはとりいれ捨て去るものは自由に未練なく捨て去るべきである。これはレーニン主義についても言へることである。なほマルクス主義レーニン主義について多く語りたいたいことがあるが他日を期する。編輯者の求めに応じて平日の考へを断片的ながらここに記した。

## 日本歴史について

——日本史學の變革——

### 一、新しい時勢は新しい思索を要求す

新しい時勢は新しい思索方法を生む。時勢の激變によつて自己の精神生活を新しい方向へ打開し得ない人間は、活動を以て社會に貢獻することのできない人間である。敗戦は日本人の精神的狹隘と増上慢を打ち破つた。民衆を精神的肉體的に奴隸につないでゐた軍國の鎖りがぶつりと切れた。いはゆる二千六百年の日本歴史は殆どぶちこはされた。歴史の學も變革を受けねばならぬ。今こそ主觀の霧で蔽はれた客觀の姿をハツキリ突き止める時である。

歴史は死んだ過去の記録でない。時間的に過去に生産されても、現在の我々に價值あるものとして人々の胸に生き續けてゐるものが歴史の名に値する。歴史の世界は人間の行爲、創造業蹟の世界である。過去の人間の努力の結晶たる價值ある業蹟は制度の中に、人の精神のなかに

生命あるものとして今も生き残つてをり、その発展の糸を探究するのが歴史の學である。

人は現在を有的に改造するために古いものなどは惜氣もなく捨てゝしまふ。新しい傳統はむしろ古い傳統の否定の上に創造される。敗戦は運命のやうな力で政治、經濟、社會のあらゆる生活に變革を必至ならしめてゐる。その變革は意識的に推進されねばならぬ。日本史學も當然變革をうける。我々は進んで變革に着手すべきだ。

## 二、神がゝり史學の生んだ弊害

支那、朝鮮、日本では歴史の學は重要な傳統ある學問で、それ／＼独自の發達をしてきた。日本でも記紀以來、特色ある歴史哲學や記述方法がある。平安朝の「かがみ」の類、鎌倉時代の東鑑、吉野時代の神皇正統記、徳川時代の大日本史や國學物、それぞれ時代精神を代表する史學作品がある。明治以來は西洋の研究方法をとり入れて形式上著しい進歩があつたが、時代の精神たるべき民主的社會主義的精神と古い根強い封建的勢力のイデオロギーとの相刻は他の精神科學よりも史學の領域に一層深刻に反映し丹念に死記録を探究する史學者は多かつたが眞に明治、大正

時代を代表する不朽の史學作品は案外少いと思ふ。昭和時代に入つてから、共產黨の彈壓は青年から思想的興味を奪ひ去り、張作霖爆死に始まり今回の敗戦に終る時期は特に史學の暗黒時代で他の精神科學と同様に滅茶苦茶にされたのみならず、それ以上に軍國主義的侵略政策の道具に歴史が使はれる悲惨な事になつた。

これまでの日本史學の精神及び方法の根本特徴は天皇を中心とする神がゝり解釋であつた。神がゝり解釋は色々の弊害を生んだ。科學的發展史的方法が無視された、時間を超越した、不動のものが假定されてゐるから、因果、發展動力、發展段階の追求が無視された。一切を皇室中心に解釋しようとし、皇室そのものの關した歴史に顧慮を拂はず、一切をそれにアテはめようとする無理を犯した。それは正しい意味の主觀主義でもない。生産する人民大衆の社會的貢獻などは殆んど問題に上らなかつた。個人的自覺の發展を跡づける努力などは見られなかつた。世界、東洋の觀念は日本史學にとつて、一定の基本觀念である筈なのに、あまりに日本本位の史觀が跋扈した。國家生活はたしかに日本人を今日まで發達させてきた條件であつたとはいへ、在來の史學は餘りに國家本位で、社會的見地が缺けてゐた。むしろ社會的見地が根底となつて國家が説明され

ねばならぬのに、その逆であつた。

史學は法律學のやうな解釋の學でなく、時間的な創造發展の跡を追求する追體驗の學であり、直觀的な藝術的把握の能力や行動的な政治理想による價值づけと共に、冷靜な理知を以てする分析が必要だ。民主主義の徹底を迫つて社會主義へ發展する日本革命の基本動向は、精神科學の諸範圍においてもそれに應ずる變革を要請する。軍國主義の道具にまで歪められた神がかり史學にも當然變革が要求される。

### 三、日本史學變革の基本

日本史における考へ方の革命には一定の歴史哲學が前提として要求されるが（唯物史觀等々）その議論はこゝで省き、直にいかなる基準において考へ方の革命が行はねばならぬかを記する。

第一に日本史學は天皇中心より人民中心へ轉換せねばならぬ。皇室が日本歴史の重要要素の一つであるのは疑ひない。特に古代及び近世には活動的な役割を演じた。しかし歴史上、何等の能

動的條件でなかつた時期や、むしろ支配者的腐敗に陥つた時期や政治的無能力者であつた時期もある。平安朝宮廷の道德的頹廢ぶりは源氏物語其他王朝文學によく現はれてゐる。室町時代には國民から孤立した、貧しい大貴族的存在であつた。徳川時代に幕府權力に壓迫せられて政治性がなかつた。日本の皇室には暴君的傳統が殆んどなく、人民の幸福を欲求するといふ理念がたしかに皇室にある。君主と人民との間の中間者が權力を握つてをるとき、両者が同情し合ふことは一の世界史的法則だが、日本でも大化改新以前では大臣大連（をみまをむすし）などの大貴族、平安朝では藤原氏、鎌倉時代以後では幕府がそれ／＼實際權力を行使したので、權力を缺いた君主と權力に苦しめられる人民との相互的同情といふ現象が日本でも行はれ、それに相應する思想が發生してゐたのである。天皇親政の實の上つた大化改新より奈良朝時代に至るまでの間に培はれた皇室崇敬感情は國民の間に傳統として残り、それが明治時代に復活した。しかし今日の日本人は奈良朝時代の日本人と異なる近代國民であつて事物の科學的説明を要求する。歴史を動かす基本力は社會經濟的なものであつて權力把持者が中心でない。君主中心に歴史が進展するといふ思想は容易に實際權力の行使者の利用するところとなる。事實上、明治時代に跋扈した藩閥的封建勢力や、最近二十年間



特に戦時中に著しく盛り返して反動を遅くした封建勢力はその権力行使を合理化するために完膚なきまでにこれを利用したのであつた。

歴史の眞内容は生産者の自由の擴大してゆく過程であると思ふ。生産者とは物質的生産に従事する者に限らず、精神的生産に従事する者をも含む。これらの生産者が人民大衆を構成する。人間の本質は創造活動であり、生産者は最も人間らしき人間である。生産者の自由は人間相互の勤勞の交換によつて積極的に促進される。それを阻む自然及び人間關係（時に悪権力）に對する闘争が自由獲得の條件となる。階級は平和な社會的勤勞の配分系列であると共に、他人の勤勞力を搾取する悪権力關係の組織化でもあつた。この意味で階級間の交互作用殊に人民の生活の形態や精神、権力者に對抗する反逆運動は歴史の生きた現實として重視されねばならない。

政治經濟上の自由は個人的自覺を促進し、後者はまた前者を豊富にする。個人的自覺なき自由は殆んど無意味である。日本において個人的自覺はいかなる歴史をもつてゐるか。個人的自覺は全體の歴史發展にいかなる寄與をしたか。日本に協同體的親和感情の長く残つてゐたのは、種々の肯定的側面を生んだが、それは個人の自覺を抑制し、個人の性格を強く鍛え上げず、権力把持

446614

者が之を悪用して人民欺瞞の道具としたことが少くない。優秀な個々人の役割、迫害された先驅者の生涯などが特に研究されねばならぬ。

第二に日本史學は國家本位より社會本位に轉換せねばならぬ。國家の本質は権力、社會の本質は勤勞だと言つてよい。権力はアナキストのいふ如く惡そのものでは決してない、むしろ社會上の善は権力の保障があつて十分實現される。権力と勤勞が調和的に發展するところに人間の生活規律、道德、生産の進歩がある。然し一階級がその利己主義から権力を獨占的に行使する場合に進歩が停止し却て退歩が現れる。從來の日本史學は権力をそれ自體的な絶對物となし、之と勤勞との相互關係、従つて國家と社會との關係を念頭におかなかつた。勤勞から分斷された國家は、專制的な軍國たらざるを得ぬ。本來の史學の多くの潮流はかくして意識的又は無意識的に軍國主義に奉仕した。

人間に賢愚があつても人間相互間の關係は平等である。いはゆる基本的人權に差別はあり得ない。社會とは人間がこの平等に立ち勤勞を交換し生活を樂しみ文化を創造する場所である。國家と社會は將來合一すべきもの、権力の社會化、國家の社會への融け込み、これが歴史の歩んでゐ

る方向である。日本は決してこの世界史的法則の外に立つてをらぬ。我々は社會を本位として、日本史を見直さねばならない。

とはいへ歴史における政治、國家、權力の役割を過少評價するものでない。日本は従前の日本國家とは異つた、新しい形式及び精神をもつ國家に新生せねばならぬ。社會的見地を中心として、歴史上の日本國家を觀察しその眞内容を把握することはこの意味からも必要だ。

第三に日本史學は孤立國的自己満足から世界史的見地をもつものに轉換せねばならぬ。世界史的見地は少しも自國を忘れた、放埒な國際主義を意味しない。世界は具體的に多くの國々より成り、それらは獨自の發展をなすと共に、その間おのづから世界が一であることを證明する數多の進歩的な共通法則がある。或る國で古代のまへに中世があつたり、資本主義の次に封建制度が現れたりするやうなことは決してない。歴史は、一國々々が獨自に民主的社會主義的努力をせねばならぬが、それが根本的には同一法則の下に同一發展段階を辿り、それらが一なるものに綜合される日のあることを豫示してゐる。過去の日本歴史は具體的には東洋との連絡なくして發展し得なかつた。日本は歴史的にみづからのなかに含まれてゐる世界史的な脈動を、再發見せねばなら

ぬ。徳川末期の國學者の皇國優越論は日本を植民地奴隸に導かうとした徳川權力に反抗し、世界における日本の國家的獨立を確保しようとする意向を含むものであつたが、過去二十年來跳梁した史學上の日本中心觀念は軍國主義を擁護する排外主義的獨善思想であつた。

第四に歴史研究の方法論に變革のおこらねばならぬはいふまでもない。歴史は人間の生産行為を以て特徴づけられる時間の世界である。超時間的な時間と關係のない絶對物の觀念をとり去るべきだ。因果の糸による發展の跡づけが必要である。唯物史觀は歴史の發展動力を物質的生產力において見る。私もかつて此説を奉じたが、これでは餘りに人間の創造的意欲、内から燃え上る行為衝動を無視し、又は機械化してゐる。歴史の原動力は人間の生産意欲、生産行為、生産者の自由獲得のための戰闘欲であると思ふ。歴史はこの意味で生産、生産者の自由を中樞觀念として觀察されねばならぬ。人間の歴史は自然史と異なるが、その中に働く法則は必然性をもつ。在來の恣意的な神がよりの獨斷を排し、客觀的な冷靜な理知的分析を必要とする。在來の神秘化された權力や、國家や民族は、理知的に分析さるべき歴史の現實條件の地位に引下げらるべきである。かゝる現實條件のうち最も具體的なものである階級が在來の押し込められた背後から出て、

思考の正面に登場してよい。日本歴史の發展段階は世界史的法則に立つて觀察することが却て特殊性を發見する所以となる。

#### 四、日本精神の新解釋

私は日本を愛する。私は我々の祖先が宇宙及び人生について抱いた哲學に愛着を感じる。それにはたしかにユニークなものがある。

然し戰時中に強調された日本精神論は却て本來の民族哲學を歪めるものだったといはねばならない。ここでは特に神がより解釋が跋扈した。歴史の學は神秘や信仰の獨斷をいれることはできない。民族精神を極左翼的に蔑視することも攘夷主義的に國粹主義を強調することも、共に誤謬である。それらは國民的立場、國民的感情から、離れた階級的偏見、階級的利己主義の所産であ

る。軍部の人間と密接な關係をもつて神がよりの日本精神論をふりまはした言論報國會の人々は、どれだけ日本文化を阻害したか分らない。(この人々は日本人に對して敗戦責任者だといへる)かれらは封建的勢力の代辯者であつたが、眞の國民の思想代表者でなかつた。

日本精神といふ言葉そのものにつきまよふた神秘性を先づとり去る必要がある。日本精神の語は、民族哲學、民族心理、民族性格などを表現する科學的な綜合名詞として規定され直さねばならぬ。日本精神の研究はかゝるものの研究に還元さるべきだ。

この意味における日本精神は、これまで言はれてきたやうな神秘的な宗教性のもでもなければ、野蠻な好戰主義でもない。敗戦は戰時中に教へられた日本精神論が虚偽で無力であることを明かにしたので、國民は精神に打撃を受け、失心状態にある。此際にこそ我が民族哲學の世界に恥づかしくない本質的部分を回想して自信を獲得し再起のための心の糧をそこから得ねばならぬ。

我々が自信を汲み出し得る所の、日本精神の強い個性的特徴はいかなるものか。第一にその生成主義があげられる。萬物は生々發育する。靜止したものは死物である。古代人は神は寂然不動

の存在でなくして神さへ生成すると考へた。たとへ素朴な生命論に立脚するとはいへ、生命を何よりも愛好したことは我々の祖先が生産的活動民族であつたことを示す。第二にわが民族の性格には強烈な行爲主義がある。「成る」又「成す」でなければならぬとされた。第三におほらかな快活な人間肯定的樂天主義がある。人間を嫌悪して瞑想に耽るニヒリスト的ペシミスト的否定論は日本で發達しなかつた。第四に彼岸的空想に興味をもたず、現世を愛し、現世に業績を立つることに熱情を示すところの現實主義がある。第五に慘虐な戦争を好まず平和を愛好する資質がある。第六に新鮮な感覺や直觀力や美意識のあることも特徴的である。缺陷としては哲學的思索力の缺乏、安價なる現實肯定、享樂好き、個人的自覺の缺乏、權力者への無批判的服従、容易に好戰的煽動に乗ること、自國忘却的外物愛好癖などがある。

日本人の哲學傾向を範疇的にいへば生の哲學に屬する。ラフカチオ・ハートンは古代ギリシヤを見んと欲せば日本を見よと言つたさうだが、少くともソクラテス以前のギリシヤ自然哲學者の思想と古代日本人の思想傾向には類似がある。兩民族とも生の熱愛者であることは同じである。

最大の缺陷は個性の弱さである。終戦後の茫然たる氣抜け状態、自己卑下、怠業、進駐將兵へ

の物乞ひ、闇相場、そのどこにも毅然たる獨立人格のかがやきは見られない。個人的自覺を基礎とせざる全體主義的統一がいかにも人間を精神的牢獄に閉ぢ込めるものであるかを痛感して恐しくなり悲しくなる。個性を鍛へ上げる民主主義段階はどうしても必要である。それを通り抜けないところの社會主義はやはり人間を畸形にする全體主義に外ならぬこととなる。

##### 五、古典に對する新しい態度

時は詰らぬ書物を亡ぼしてしまふ。現代の刊行物には一年経たぬうちに忘却されてしまふものがむしろ大多數である。之に反し古典は千年數百年の歲月のなかに風波にもまれながら生き残つてきたもので、それはそれだけ民族の生命を内容的に含んでゐる。決して偶然に残つてきたものでない。津田左右吉氏は、記紀は或る時代に朝廷で創作されたといふ假定を立てこの假定に基いて演繹的に古代史の議論をしてゐる。羽仁五郎氏がこれを祖述してゐる。論證なしの突如たる假定、その假定に立つての演繹的な史的記述、これは驚くべきことで、かやうな方法論的態度についての私の疑問はいづれ他の機會に發表して同氏等の教へを乞ふことにする。記紀萬葉などの

古典には民族が長い間の生活闘争の過程で獲得した精神的作物が残されてある。それらにむやみに陶醉するのは元より學問的態度でない。我々は追體驗的に古典によつて我々の過去を、現在もなほ生きてゐる生命を感じとることができると共に、自己自身の缺點をも長所をも自己批判することができる。

敗戦は民族生命のある部分を切斷した。斷たれた生命は、いかに愛惜されようともはや死物である。その斷たれた生命は古典のなかでも當然力を失ふ。少くとも古典の解釋について、これまでいかに權威をもつたものであつても、斷たれた生命に關する部分は除かれねばならぬ。反動を培ふやうな解釋はみなこの大變革期に際して掃蕩されねばならぬ。

古典の解釋については次の三つの態度が必要であらう。第一に古典中の神話部分については、之を事實の記載として受取らないのは勿論、宗教的信仰の泉源として見ることをもやめ、之を民族哲學、民族感情の藝術的表現として分析する。古代人は知的分析力が乏しいに反し、感情は豊かであつたから、その思想を藝術化して表現した。神話の荒唐無稽な記述の中に古代人の眞實の心を追ひ得る。

第二に古典中に含まれる事實の斷片を嚴密に拾ひ出すこと。この際、征服者的歪曲をとり除くのは當然である。

第三は解釋の自由である。批判の自由、思想の自由は古典の領域で最も活潑に適用さるべきだ。但しラヂカルさうに見えても眞理を掴まぬ批判、なにかの成心を以てする故に歪んでゐる批判は價值がない。純粹に對象を把握し、その本性に従つて取扱へといふゲーテの言葉はここでも眞である。

戦争中は大抵誰れも負けたいといふ者はないから、若い歴史研究家たちが多少とも神がかり史學にかぶれたことで、かれらを戦争責任者の範疇に入れるのは無理であらう。日本史學では個々の命題についての記述的研究には相當よい業績が多くできてゐるやうに思ふ。しかし根柢に一定のしつかりした史觀と一貫した綜合的見解をもたないところの分科的研究は眞の研究でなくしてヂレツタンチズムである。敗戦と敗戦後の新情勢は日本史學の變革を要求する。若い歴史家たちが社會上の變革を鼓舞する精神的武器たり得る如き新史風を一日も早く建設することを期待す

る。何となれば社會上の變革は非常に早い速度で迫つてをり、それは自然生長性のまゝに任せず意識的目的を以て導かねばならぬのであるから。

## 日本史の一基本問題

### —封建主義段階の問題—

#### 一、日本資本主義の畸形的發展の要因としての封建主義

歴史にはたしかに飛躍と突變的變化の時期がある。しかしそれは要するに地下に蓄積された力が時來つて地上で爆發するのである。蓄積の乏しいままでの飛躍にはムリがある。日本資本主義は後者のいたましい例である。無謀な戦争に突入し、國民に大不幸を與へ、國を亡國の瀬戸際にたたせるにいたつたのは、資本主義が正常の發展コースを辿つてゐなかつたところに大きな社會的原因がある。

日本資本主義はその發達の時間があまりに短かつた。前段階の封建主義があまりにつよく殘存してゐた。四圍の國際情勢から急速に發達せねばならぬ必要に迫られつつしかも封建的殘存物に内面を制約され、そのため日本資本主義は、一にぎりの封建的同族の指導する財閥資本の全産業

機構への制壓、商業資本と産業資本との不分離、植民地的な低賃金労働とその泉源としての封建的農村の温存、したがって國內市場の不發達、平和産業の一般的發達よりも高い保護貿易の障壁の内側における軍事的重工業の畸形的發展、植民地の奪掠等の不正常的要因をその生存條件としてゐた。だから企業の合理性、産業經營の能率性、土地關係のブルジョア化、都市と農村との對等、これらの總合としての生産力の普遍的發展、といふやうな資本主義のよい遺産が蓄積されてゐない。

無比の敗戦は日本を新しい社會革命に當面させてゐる。日本は資本主義を復活してそのイロハからやり直してそのよい遺産をできるだけたくさん身につけるやうに努力すべきであるか、もしくは歴史の次ぎの段階たる社會主義へただちに轉移すべきであるか。上向的な資本主義を再現する可能性は全體的にみてもはや缺けてゐる。さりとて社會主義へ直接的に轉移するには、その條件の蓄積が豊富でない。それは封建主義から資本主義へ轉移する際にその前提條件の蓄積が少かつた以上に乏しい。

われわれ日本人は氣早である。日光廟の造營さへたつた二年で仕上げたといふことだ。中世歐

洲人が、ゴチック風の大伽藍を幾十年もかゝつて建設したやうな忍耐力がない。中國人が萬里長城や大運河を作つたやうな、規模の雄大性がない。氣早な實行は進取を意味してゐるけれどもそれから來る弊害は明治維新以來の歴史においてしたたか味はされた。

日本社會主義は日本資本主義のやうに畸形的發展をするものであつてならぬ。いまのわれわれの任務は資本主義へ戻ることでない。今は徹底的に民主主義を遂行する段階である。第一に政治經濟上における封建的殘存物をできうる限り完全に除去すること、第二は日本の民主革命の特殊性（ブルジョア民主革命にあらずして勞農的革命的民主主義）に相應する政治經濟上の特殊形態（人民委員會、二重權力、生産管理、經營協議會等）を創造して社會主義權力及び經濟條件への轉移條件をつくること、これが今日のわれわれの任務である。

この意味で封建主義は過去の問題でなくして現在の問題である。日本資本主義の畸形的發展の條件であつたといふ意味において、當面の民主革命における主要の闘争對象であるといふ意味において、日本史における封建主義の功罪が再批判されねばならぬ。われわれは歴史の中から出てきたものであり、われわれ自身歴史的存在である以上、封建主義の再検討は、自己認識、自己批

判の問題であり、また自己改造の問題である。歴史は死過去の學にあらずして現在の學にほかならぬ。

## 二、長すぎた封建主義段階

日本における封建主義時代はあまりに長すぎた。平安朝の莊園發生時代から明治維新まで、すなはち十世紀ごろから十九世紀のなかばに及んだ。古代の奴隷労働國家から中世の封建主義國家へ移るのは一の世界史的法則だが、これを完全に實現したのはヨーロッパと日本だけで、中國をはじめ東洋諸民族の社會ではこの過程が完全に現れず、古代的なものが強く残つたのであつたが、日本の封建主義時代はあまり長すぎたために、封建主義そのものより遺産が途中で歪められるやうな不幸な變態的現象を生じたのである。

室町幕府の政治的統制力が崩壊していはゆる戰國時代に入つた十五世紀ごろには、世界交通の最初の開花といふ海外情勢に應じて、日本でも早期資本主義が展開し出した。海外市場の擴大といふことが内なる生産力の發展といふ條件に劣らない資本主義の發展要因であることは共產黨宣

言にも指摘されてある通りだが、戰國時代の末の日本では、商業や工業のギルド的制約を打破する運動が活潑に起り、金銀の採掘が盛となり、堺のやうな自由な都市が繁榮し、海賊と商業を兼ねた倭寇を先驅とする海外貿易が盛況を呈し、秀吉が特許狀を與へた御朱印船はヨーロッパ風に偽装するものがあつて、中國や南洋のみならず遠く印度のガンデス河流域にまで航海した。商業資本が資本主義發展の前驅となる現象が完全に現れたのである。島國日本は國際環境のなかに身を以て突入しなければその生活條件を確保することができない。(この理は今後ますますそうであらう) 海外貿易の盛に行はれた奈良朝時代や南蠻時代には國內文化も規模が大きくなつた。(外國語を輸入して日本語の語彙を豊かにしたのはこの兩時代にもつとも多い。)

この商業資本的早期資本主義の源流は徳川の鎖國政策のためにせきとめられてしまつた。一つの歴史の必然の方向が人間の反動的政策によつて押しゆがめられる悲惨な例である。寛永十四年の島原キリシタン一揆の鎮壓されたのちには鎖國は決定的となり、國民は外國交通を恐怖するやうになり、排外主義的攘夷觀念が成長し、文化は盆栽的となつた。徳川時代の封建制度は、純粋性を失つた、變態的なものであり、その枠内で生存と發達を續けた町人の商業資本の機能もその



ブルジョア財産の蓄積も、自由主義性のない、御用商人性のつよい、個性の自覚と獨立とに貢献するところの乏しい、一種のねぢくれたものだった。日本の封建主義時代は戰國時代で終るとよかつたのだ。それまで封建主義はかなりよく生き抜かれ、蓄積された封建主義のよい遺産は資本主義的發展の前提条件たり得たのであつたのに、この歴史的動向に逆行する徳川の鎖國的封建制度の作り出されたのは不幸なことであつた。明治維新のブルジョア革命は封建主義より資本主義へといふ歴史的必然がつひに徳川の封建制度を突破した運動だったのだが、以上のゆがめられた歴史過程は明治維新以後の資本主義の本質にも體系にも機能にもネガチーフな影響を與へ、資本主義としての正常的發展を妨げてきたのである。

### 三、わが封建主義段階の史的鳥瞰

一般的に封建主義の特徴は、土地所有制、單純商品生産、商業及び工業におけるギルド制、階級の身分制的系列、農民の農奴的地位、職業の分化、政治的には權力の分裂等である。

日本の封建制度はかなりよく古代的なものを止揚して右にのべたやうな特徴を具へることがで

きた。平安朝には古代國家内部の異人種的對立が階級的對立に轉化した民族的統一が成立した。

鎌倉時代になると武士と其他の階級の間身分的上下關係が完成するとともに、職業の分化が具體化し、商人と工匠の層が獨立的存在となり、單純商品生産がはじまつた。古代農業共產主義のほひを残してゐた大化改新の土地國有制度はやがて生産力發展の桎梏となり、土地用益者の口分田の賣買や質入れ、大貴族の莊園の設置などによつて土地國有制そのものが衰滅し、更に莊園制を止揚する武家知行地や大名領地の發達によつて封建的土地所有制が完成し、農民は移轉の自由を失つて土地にしばりつけられ農奴的地位に落ちた。

やがて封建主義社會の胎内でこの社會を顛覆する新しい力が生まれてくる。それは經濟的には第一に土地の現實用益者の土地私有であり、第二に單純商品生産を基底とする商業資本の活動の開始である。前者は農民的土地所有の新しい復活形態でもある。私的な小生産者の成立は個人の獨立や人格の自由の成立する物質的前提である。かくのごときものの兆候は北條時代の末期からあらはれつつあつたと見うる。

室町幕府が政治上の統制力を失つたことは、各段階のエネルギーを自由奔放に發動させること

となつた。下剋上は舊組織に反抗する民主主義運動にほかならぬ。福利平均といふスローガンをかかげて徳政を要求する土一揆の頻発は我國最初の民衆的階級闘争である。一向一揆も宗教の衣裳をつけた農民戦争にほかならない。商人は大膽な遠洋航海をして商業的富を蓄積した。國際交通とともに南蠻文化が觀迎された。都市や海港には自由な空氣がみなぎつた。ギルド的制約を打破する樂座や地方的關稅障壁を打破する樂津のやうなものが發達した。信長が偉大な政治的軍事的成功をしたのはかれが時代の自由主義的空氣を代表し舊物を遠慮會釋なく打破する革命兒であつたからである。

徳川の鎖國政策はせつかくの自由主義的氣運、早期資本主義への胎動を萎縮させてしまつた。なるほどこの平和にすぎた二百何十年間に經濟生活にはいろいろの進歩があつた。農業における耕作面積の増加や生産方法の改良、工業におけるいはゆる國産の獎勵、市場の國民化、貨幣流通の普遍化、信用制度や投機事業の發達、江戸其他の大都市の繁榮、ブルジョア（町人）の成立、家内工業や工場制手工業の端緒などがそれである。しかし歴史の基本動向に逆行して人爲的に構築された封建制度には、幕府大名の財政破綻、武士階級の貧困化と社會的統制力の喪失、土

地經濟と商業經濟との衝突、封鎖國態勢と押し寄せる世界資本主義の波との衝突、商工業のギルド的體系と資本主義的衝動との衝突等の矛盾が折り重なつて收拾すべからざる状態が必然的に發生した。

ヘーゲルの言ふやうに矛盾は發展のための嚮導者だ。徳川後半期の矛盾は明治維新といふ革命を用意した。社會的矛盾の激化した際にもつとも苦しい生活に投げこまれるのは民衆だ。社會的矛盾は民衆の生活窮乏に表現せられる。（われわれは現今まさにかゝる事情のなかにある。）徳川後半期の民衆は農村における百姓一揆、都市における米一揆（うちこはし）の形で直接的には生活窮乏の解決を要求し間接的には舊權力否定の意志を表現した。この民衆運動は明白な政治的な綱領的要求をもたなかつたとはいへ、明治維新を背後より促進した、眞の社會的な革命力であつた。西郷隆盛も伏見鳥羽の役のまへの御所會議で貧富の懸隔の打破を叫んでゐる。民衆の革命氣分はこの正直な指導的革命家の心胸にも反映してゐたのである。明治前半の自由民権運動もかやうな民衆の意志を基礎づけられてゐると見てよい。

## 四、明治以後にまで残つた封建主義

明治維新は本質的にはブルジョア革命だったが、封建的なものがあまりに強く且つ多量に残存したゆゑに、日本資本主義の発展も不正常的ならざるを得なかつた。

徳川時代から残された封建的なものとはいかなるものであつたか。

第一に革命の指導者だつた下級士族たちが社會性からいへば封建的要素であつたことがあげられる。安政大獄に刑死した吉田松陰も橋本左内も維新後に活動した西郷大久保木戸等も革命家として識見熱情献身において深い尊敬に値する人々であつたが、これらの人間を先導者としたところの下級士族出の革命家群は、革命後に舊大名や舊公卿とむすんで明治時代には藩閥勢力として政權を壟斷して民間の民主的勢力を壓迫し、貴族院、樞密院、宮中に集くひ、大正昭和時代には軍閥となつて爾餘の封建諸勢力を聯合して反動の中心となり、あげくに冒險的帝國主義戦争に國民をみちびき入れた。

第二に舊町人三井、鴻池等に起源するブルジョア層は、商業資本的機能、御用商人的性格、同

族資本構成等の、封建的特徴からぬけ出すことができず、その性格は士族出の大ブルジョア（岩崎、藤田等）のつともつて範とするところとなつた。

第三に農村の封建的構造がそのままに残つた。ブルジョア革命につきものの農業革命はただ土地私有の公認とか、地租改正とかが行はれただけで、農村全體を資本主義の枠内にとり入れることは行はれなかつた。いはんや傳來の零細經營を打破することなどは手もふれられなかつた。國內市場が豊かになつて資本主義が平和に發展する條件が生まれなかつた。農村は今日に至るまでなほ資本主義以前の構成にある。

第四に上下依存的身分制の封建的慣習が切斷されなかつた。身分制そのものは除去されたが、身分制に特有だつた上下依存、主従關係、權威主義的秩序は残つた。上下の信義觀念はけつして否定すべきものでないが、上下依存關係は個人の自覺を齒止めにし、容易に全體主義の素地となりうるものであつた。

第五に鎖國時代に育成された攘夷論的偏狹排外主義その他の封建的イデオロギーの影響が残つた。學問も藝術も宗教も道徳も科學性のない直觀主義や人間超越的な非合理主義などの封建的な

ものから禍された。革命の最後の問題はけつきよく精神革命であり人間性の新しい発展にあるのだが、明治維新はブルジョア革命として當然果すべき民主的な人間文化の建設を果し得なかつた。社会的に封建的なものが強く残つてゐるかぎりこの精神革命の問題も合理的に解決され得なかつたのである。

### 五、今も深き封建的根源

戦争は日本の國家と社會とを根柢から震撼した。しかし震撼しただけで、まだ變革されてをらぬ。

聯合軍は日本に上陸してから先づ軍隊を解体し、それから矢繼早に日本の民主化を次々に指令した。言論結社出版思想信仰の自由その他の政治的自由、彈壓法令の撤廢、議會中心政治、婦人の参政權、舊指導者の追放、財閥及び地主的土地所有の解体、労働組合の制定による資本と労働の對等化、財産税の設定等が、そのおもなるものである。この内容を充實するのはわれわれ日本人の任務である。

しかし封建的根源はなほ深い。都市の市民生活にも農村の生活にも古い傳統的な封建主義が根を張つてゐる。上からの改革だけではとうてい民主主義の徹底は期待できない。民主主義は下から築きあげられなければ、上の方の封建的なものもほんとうはこはれない。古い財閥組織が内容的に温存せられるばかりか、經濟の荒廢の整理の必要に應じて新財閥の發生する可能もある。農村の行政機構や農業會には依然として古いボスが巢をくつてゐる。家族制度における封建的なものは、なほ微動もしてをらぬ。

### 六、わが民主主義革命の諸問題

とはいへ、日本人はすでに敗戦後の失心状態から脱しかけてゐる。下からの民主主義運動がしだいに芽をふいてゐる。われわれの民主主義革命の眞の欲求者たり擔當者たるものは、ブルジョア層でなく、労働者農民を中心とし、都市小市民、インテリ、中小工場主、技術者、復員者、主

婦、勤勞女子青年、學生等をふくむ廣汎な生産者大衆である。純粹のブルジョア民主主義形態は資本主義が上向的發展の路線にある場合に妥當であるが、日本ではもはやかゝる路線は望みがうすい。さりとて今は直接的に社會主義に移行する段階でもない。今は資本主義の枠内で、封建的殘存物を徹底的に掃蕩し、しかもその過程において次ぎの社會主義段階の権力および經濟を用意する諸形態を作り出すところの、新しい民主主義闘争の段階である。勞働組合、農民組合、食糧人民委員會、市政や町政の民主化運動、青年團體、産業における經營協議會や工場内の經營委員會などの諸形態は、下からの民主主義運動として大きな創造的意義がある。

上からの民主主義的改革としては、議會、官僚制、憲法改正（天皇制の問題）の三つが主要な命題である。

議會が権力の母胎となることは當然である。いぜんに宮中の重臣がたらひまはしに内閣を作つたり潰したりしたやうなことはもう終焉した。政府が議會で多數を占める一政黨または數政黨によつて形成されるブルジョア民主主義政治原則が確立されねばならぬ。しかしわが民主主義革命の性質上、議會だけでは十分でない。下から築き上げられる全國人民大會のごときものが制度化

されて、議會と相並んで民主的権力の源泉となる必要がある。全國人民大會は下部の人民組織（工場、農村、都市地區のごとき生産點を基礎としたところの）から築き上げらるべきもので、單に國民投票制度の擴大發展だけにとどまるものでない。全國人民大會は議會よりも一そう直接的かつ総合的に人民の意志を代表する。

在來の官僚制の害惡については、こゝに述べるまでもない。それは人民から遊離した、それ自身深刻な封建殘存物的存在である。官公吏の民選、とくに民警の選出、諸種の人民委員會との聯結、中下級の官公吏の職員組合等の手段を通じて民主化し、官僚をして眞の人民の公僕たらしめねばならない。

最後に天皇制だが、天皇制は封建的勢力そのものでないが、これまで封建的陣營の機關として利用されてきたのは明かである。天皇制は永い間つづいてきた傳統機構で歴史的にみて國民的創作物であり、國民的利益を代表する機關として改造し活用する可能は十分ある。主權在民説は正しい。この思想は憲法改正案の主要原則としてすでに採り入れられた。天皇制は在來の人民遊離的な封建性を離脱し、民主的な人民權力機關として改造され、天皇自ら日本の民主主義革命の先

頭に立つことがのぞましい。それ以外に天皇制の存続する餘地はない。

議會に提出された憲法改正案は各國のブルジョア民主主義憲法の粹を抜いて書き下したやうな古典的なほひのする草案である。それ自身、封建的殘物を除去するものとして十分役立つ。しかし當面の日本民主主義革命がブルジョア民主主義の枠内だけのものでないのは上に述べた通りである。新憲法はとくに社會的側面に強い關心が拂はれねばならぬ。革命の現實的進行がのちに第二第三の憲法改正を必要とするにいたるであらう。

日本の封建主義段階の二百年に垂々とする長い歴史、戰國時代に終末すべくして徳川時代に歴史逆行的に作り出された新封建制度、明治以後になほ壓倒的勢力を占めつづけてつひに第二次世界戦争にまで國民を誤導したところの、封建的殘存勢力、今も都市農村に根を張つてゐる封建的慣習、われわれの心のなかにさへ巢くうてゐる封建的なもの、それらの、歴史的にもう役に立たなくなつたものを徹底的に掃除することなくして日本の再建はできない。萬物流轉は歴史の大原則であるが、人間の意志しだいでこの流轉の作用が早くなつたり遅くなつたりする。日本再建のため

めにわれわれの意志を以て封建的殘存物を徹底的に除去する民主主義革命がどうしても必要だ。それですべては日本歴史は前進することができない。

昭和二十二年四月五日 印刷  
昭和二十二年四月十日 發行



著者 佐野學

發行者 菅原二郎

印刷所 文化印刷株式會社

代表者 加藤新

東京都千代田區神田  
神保町一丁目四十六

發行所 株式會社九州書院

東京都中央區京橋木  
挽町一丁目八番地

電話京橋(56)

984・4606・4607

配給元 日本出版配給統制  
株式會社

東京都千代田區神田  
淡路町二丁目九番地

佐野學  
民族と民主主義

定價 25 圓

株式會社

九州書院

出版協會會員番號

A 211257

課第  
33.3.4.  
調查立法考查局





